



2024年度 京都橘大学 地域連携活動実績集

2024年4月～2025年3月



2024

INDEX

京都橘大学の地域連携活動について	2
------------------	---

ごあいさつ	6
-------	---

I. 地域連携活動	7
-----------	---

学まちチャレンジ！プロジェクトの活動報告	8
★プロジェクト概要	8
書道を楽しくしっかり学ぼう！	9
子宮頸がんは予防できる？！～予防の大切さを学んだ看護学生だからこそ伝えたい～	10
山科「ふるさと会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト	11
健康で長生きするために	12
運動で地域をつなGO!!	13
備えようその瞬間	14
地域交流拠点を活用したふれあい健康イベント	15
みんなで受けよう！がん検診	16
醍醐地域における子ども・子育て層が住みやすいまちづくり	17
地域連携センターや各学科による地域連携活動の報告	18
京都薬科大学との共同学生団体ME-ME	18
京都橘大学・京都薬科大学による合同多職種連携教育	19
七夕陶灯路2024	20
たちばなサイエンスデー2024	21
たちばなこども食堂パーティー2024	22
醍醐中山団地 秋まつり・盆踊り	23
草津市地域保育士・保育教諭・幼稚園教諭向けスキルアップ研修	24
伏見区役所醍醐支所×京都橘大学 3Dプリンタ体験学習	25
駅ナカアートプロジェクト、Art Under the Shijo	26
琵琶湖湖底遺跡における水中考古学の実践	27
山科警察署員向けの英語講座	28
地域との豊かな連携を広げる 一げんKids★応援隊	29
草津駅東口付近の来街者調査でまちづくりに貢献	30
地域の需要を掘り起こす！「農福連携」に向けた福祉事業所意向調査プロジェクト in 与謝野町	31
草津ブランドの認知度UP作戦！～アオバナシナジー～	32
3学部4学科合同PBLで山科の魅力発信を提案	33
移動販売で地域を支える	34
ney-ney project café(ネイネイプロジェクトカフェ)の実施	35
企業と学生によるアロマオイル製品協同開発	36
「看護お助け隊 in 醍醐中山団地」の活動	37
たちばな健康相談	38
小学生の健康調査	39
京都市在住高齢者を対象とした運動器検診	40
一軒家を活用した多世代交流の場を体験	41
ものづくり教室を通じた学生と高齢者の交流	42
PUSH講習及び救急蘇生法の普及活動	43
第2回山科ふれあいあおぞら駅伝救護	44
環境と健康を守る：地域に根ざした感染症対策の最前線	45
その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）	46

II. 自治体・企業・大学等との連携協力に関する協定等	56
-----------------------------	----

2024年度 京都橘大学 地域連携活動実績集

(2024年4月～2025年3月)

京都橘大学 地域連携センター
Center for Regional Collaboration

地域から学び、地域と共生する 京都橘大学の地域連携活動

地域連携の
取り組み数

236件[※]

※2024年4月～2024年12月の実績

さまざまな地域・団体の方と連携しています

連携先

行政

まちづくり、防災、医療等
さまざまな分野

企業

民間企業、金融機関、
医療・福祉系法人、NPO法人等

団体

地域で活動している
さまざまな団体

活動主体

学生団体

学生ならではの
課外活動

授業・ゼミ

地域で学び地域に学ぶ
正課授業

教員

教育・研究・社会貢献活動

本学設置の9学部15学科の研究・学びを生かした活動を展開

工学部(情報工学科、建築デザイン学科)、文学部(日本語日本文学科、歴史学科、歴史遺産学科)、国際英語学部(国際英語学科)、発達教育学部(児童教育学科)、総合心理学部(総合心理学科)、経済学部(経済学科)、経営学部(経営学科)、看護学部(看護学科)、健康科学部(理学療法学科、作業療法学科、救急救命学科、臨床検査学科)



本学WEBサイト
学生団体一覧

活動の内容

まちの活性化

世代間交流

イベント
企画・参加

高齢者の
健康増進

こども分野
子育て支援

マーケティング
商品開発

調査・研究

…etc 多岐にわたります

地域連携センター

京都橘大学地域連携センターは、地域政策・社会連携に関わる総合的事業を展開し、地域連携活動を通じ、本学の教育・研究に資するとともに、本学における地域政策・社会連携の一層の推進に寄与することを目的として2014年に開設されました。以来、自治体をはじめとする外部諸機関・団体とのネットワークを通じてさまざまな連携および共同事業を推進するとともに、地域連携活動を行う学生団体の活動を支援・指導すること等に取り組んでいます。

地域連携センターの役割

- 1 大学・地域間の窓口としての役割
- 2 要請に応じた活動支援体制の構築
- 3 地域連携活動成果の発表・発信
- 4 自治体・外部諸機関・諸団体とのネットワーク構築
- 5 地域連携活動を行う学生団体の支援・指導
- 6 その他地域連携活動の推進に必要な事業の実施

京都市伏見区・醍醐中山団地内に 地域連携センター分室を設置

学生や教員が住民の人達との交流や地域貢献活動を行い、地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。



まちづくり研究会

「現場に臨む」ことに特化した学生団体

「まちづくり研究会(通称「まちけん」)」は地域連携センターのもとで京都・山科地域活性化の活動をおこなう学生団体です。学部学科の枠を越え、全学からおよそ30名の学生が所属(2024年現在)し、清水焼団地と連携したあかりイベント「陶灯路」の開催や、三条街道商店会のまちづくりイベントへの参加、地域のこども食堂活動の支援など、さまざまな地域連携・貢献活動を実施しています。



VOICE 連携先

京都市山科区役所 副区長
地域力推進室長
百瀬 俊郎 さま



貴学におかれましては、日頃から山科区政に格別の御理解御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

近年、貴学が目覚ましい発展を遂げられる中であっても、「学まちチャレンジ! プロジェクト」やまちづくり研究会、共同学生団体(ME-ME)による活動など、地域に根差した多くの実践に取り組まれていることは、誠に心強い限りです。今後とも、貴学並びに学生の皆様が、山科に根を張りつつ、益々飛躍されることを切に願います。

さて、私事ですが、貴学の先生方や事務局の方々とは日頃から実に気さくにお付き合いさせていただいており、改めて御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いします。

VOICE 参加学生

まちづくり研究会 4 回生
中村 恭菜 さん



まちづくり研究会に参加したきっかけは「陶灯路」でした。清水焼やガラスにろうそくの明かりを灯す、学生主体のイベントです。地域資源を活かした温かみのあるまちづくりに魅力を感じ、地域と連携して新たな価値を生み出すことに挑戦したいと思いました。

実際に活動する中で、「居場所」の大切さや世代間交流が地域の活力向上に重要であると学びました。様々なイベント運営を通じ、普段接点の少ない世代の方々が私たち学生との交流を楽しみにくださっていることを実感し、私自身も地域の方々とのお話を楽しく感じました。この経験を活かして、温かいつながりを生む地域づくりに貢献したいと考えています。

まちづくり研究会

七夕陶灯路

山科の伝統産業 京焼・清水焼を伝える



書道部

能登半島復興応援イベント出演

イオンモールKYOTOにて書道パフォーマンス



サッカー部

HOME GAME イベント

地域のこどもたちをご招待

京都橘大学の 地域連携活動

さまざまな団体が活躍！



箏曲部

イオンモール de みんなの文化祭で演奏

イオンモートル久御山にて



吹奏楽部

醍醐中山団地の盆踊りイベントで演奏

住民学生が企画「盆踊りだヨ!全員集合」



たちばなサイエンスデー
地域連携センター

大学の研究にふれてみよう



京炎そでふれ!部

小野フェスティバル

小野小学校にて演舞出演

書道部

和泉商工フェスタでの書道パフォーマンス

書道家・永山珠潤氏とコラボ



OSJ 橘

病院での書道体験教室

洛和メディカルフェスティバルにて
(洛和会 音羽リハビリテーション病院)



たちばなこども食堂パーティー

地域連携センター

近隣のこども食堂等も参加

吹奏楽部

花まつりでの演奏

東山浄苑東本願寺にて



げんKids★応援隊

夏祭り×ハロウィン

大学のキャンパスで実施



和太鼓部

和太鼓レッスン・交流

京都市立東総合支援学校のみなさんと





梶谷 佳子 地域連携センター長

本書は、京都橘大学における2024年度の地域連携実績をまとめた報告書です。本年度も、多くの学生や教職員が参加する地域連携活動を多分野において実施することができましたことをうれしく思います。

地域連携センター主催の活動では、「たちばなサイエンスデー」が今年度で四年目の開催となり、のべ500名を超える小学生のみなさんに参加していただきました。また、「たちばなこども食堂」も今年度で三年目の開催となり、昨年と同じく児童教育学科・げんKids★応援隊の「クリスマス企画」との共同開催で、300名近くの方にご来場いただき、活気あふれるイベントとなりました。

本学は、2016年度開始の「学まち連携大学」促進事業(京都市)へ第一期(2016～2019)・第二期(2020～2023)ともに採択されました。事業の終了した2024年度は、これまでの成果を踏まえ、また継承することをねらいとして、本学独自の学生公募型地域連携活動助成事業として「学まちチャレンジ! プロジェクト」を実施し、9つの学生グループが多彩な活動を展開しました。そのうち3つのグループは、山科区役所や地域の金融機関、社会福祉団体などの外部機関との連携プロジェクトとして活動しました。いずれのグループも、それぞれ学生が大学で学んだ知識やスキルを活かしながら取り組みました。近年本学で実施した調査では、地域連携活動に参加する学生が学習面においてもよい成果・成長を遂げているとの検証結果もあり、今後も学生の主体的な参加を期待し、また促してまいりたいと考えています。

本学は、2005年の男女共学化および「京都橘大学」への改称を機に「自立・共生・臨床の知」を教学理念として掲げ、教育・研究活動を行っています。そして、その教学理念を具現化するために、2014年「京都橘大学地域連携センター」を設置し、本年に至るまで継続して地方自治体・企業・団体のみなさま等との様々な連携事業を展開してきました。2024年度の地域連携活動をまとめました本書をご一読いただき、ご意見やご感想をいただければ幸いです。当センターとしましては、今後とも学生や教職員による多様な地域連携活動の展開と広報に努めていきたいと考えております。本学の地域連携活動により一層のご協力、ご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



地域連携活動

- 学まちチャレンジ！プロジェクトの活動報告…………… 8～
- 地域連携センターや各学科による地域連携活動の報告…………… 18～
- その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）…………… 46～

学まちチャレンジ！プロジェクト

学生から応募される自主的な地域連携活動を支援

本プロジェクトは、京都市第二期「学まち連携大学」促進事業に採択された取り組みの一つとして2021年度から2023年度まで実施してきたもので、事業終了後の2024年度においても継承し、実施しているものです。2024年度もそれぞれのグループがプロジェクトを通して自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、得意なことや学んだことを活かして地域の課題解決にチャレンジしました。

①自由テーマ型

「こどもの居場所をつくりたい」「まち歩きマップをつくりたい」など、同じ思いをもった仲間を集めてプロジェクトを立ち上げるものです。

応募資格 本学の学生(学部生・大学院生)で原則3名以上のグループ

NO.	チーム名	プロジェクト名	概要
1	OSJ 橘	書道を楽しくしっかり学ぼう！	地域の方に向けて、書道を楽しく学んでもらうための書道教室や書道イベントを実施するプロジェクト
2	京都橘大学ピアカウンセリングサークル	子宮頸がんは予防できる？！～予防の大切さを学んだ看護学生だからこそ伝えたい～	思春期ピアカウンセリングをベースに、中学生～大学生へ子宮頸がんについての正しい知識と自己決定について啓発するプロジェクト
3	京都橘大学考古学研究室 山科遺跡魅力発掘チーム	山科「ふるさとの会」と連携した山科の歴史遺産魅力発掘プロジェクト	山科の歴史遺産巡りのパンフレットを作成、遺跡出土品の展示を通じ、地域のふるさとの魅力・発掘に貢献するプロジェクト
4	ナースのたまご	健康に長生きするために	地域の高齢者一人ひとりが健康について意識を向け、自ら健康を獲得できるように健康教育を実施するプロジェクト
5	看護医療系サークルNICO、 看護学部有志	運動で地域をつなGO!!!	地域の方へ気軽にできる運動を紹介し、運動を通して年齢にかかわらず楽しく交流できる場を提供するプロジェクト
6	防災サークルFAST	備えようその瞬間	災害や救急医療に関する知識と技術を共有することで、予測不能な大災害に備え周りの人を助けられる人材を育成するプロジェクト

②テーマ設定型

連携機関とともに地域の活性化を目的とした活動を行う参加者を募集するものです。

本学のメンバーと連携機関の職員の方々とが協働し、地域活性化のためのプロジェクトを作り上げていきます。

応募資格 本学の学生(個人・グループとも可)

NO.	プロジェクト名	概要
1	コミュニティ・バンク京信連携	コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、イベントを通じて健康や生活の安全の大切さを地域の方々に発信するプロジェクト
2	山科区役所連携	山科区役所と連携し、区民一人ひとりが健康づくりに積極的に取り組んでいくため、「(健)診の受診率向上」「骨粗しょう症予防」を呼びかけるプロジェクト
3	醍醐いきいき市民活動センター連携	醍醐周辺地域の子ども・子育て世代の交流を目的としたイベントに参加し、若者世代の集まる仕組み作りを考えるプロジェクト

- 実施地域・場所
京都市山科区、伏見区
- 参加学生数
30名

書道を楽しくしっかり学ぼう！

OSJ 橘

1年を通して幅広い活動を展開

OSJ 橘は、文学部日本語日本文学科書道コース有志の学生による団体で、O:おもしろい、S:しっかり学べる、J:字がうまくなるの頭文字を取って名付けられました。多くの人に筆を持つ機会を提供し、書道の魅力を発信することを目的に、OSJ 橘では地域に根ざした活動を展開しています。特に子どもたちの字の上達や書道の基礎習得、集中力の向上を目指し、学びの場を創出しています。今年は本学の山科駅前サテライト・ラボラトリー「たちらボ山科」での毎月2回の書道体験会の定期開催を中心に、様々な場所でワークショップや書道パフォーマンスなどの幅広い活動に取り組み、小学生を中心に親子での参加や、リハビリに取り組み高齢者の参加など、多くの方々に書道を楽しんでいただきました。

イオンタウン山科柳辻のイベントでは、季節ごとのテーマを取り入れた書道体験が好評で、音羽リハビリテーション病院でのワークショップでは幅広い世代の方々と交流を深めることができました。醍醐味eetsでの書道パフォーマンスは、多くの観客に書の魅力を伝える機会となりました。また、たちらボ山科での書道体験会の開催では、書道の楽しさを多くの人に伝えることができたが、一方で集客の課題も浮き彫りになりました。従来の宣伝方法では参加者の減少が見られ、SNSの発信強化や活動内容の見直しを図る必要がありました。また、指導のばらつきや基礎指導の不足といった課題も明らかになり、改善に向けた取り組みを進めています。



今年度の課題を踏まえ、質の向上を目指す

今後は、たちらボ山科での活動を「書道体験会」から「書道教室」へと発展させ、今までの参加者が自由に好きな文字を書いてもらう方針から、参加者の上達が実感できるよう「月課題制」を導入する予定です。これにより、計画的な指導を行い、書道の基礎をしっかりと学べる環境を整えます。また、指導者(学生)の技術向上にも努め、お手本作成を競い合う仕組みを導入することで、質の高い指導を目指します。さらに、開催場所の複数化を検討し、より多くの子どもたちに書道を学ぶ機会を提供できるよう取り組んでまいります。今後もメンバーの指導力向上、活動の充実を図りながら、地域社会に貢献し、書道の魅力を広める活動を続けていきます。



たちらボ山科での書道教室



醍醐味eetsでの書道パフォーマンス



音羽リハビリテーション病院でのワークショップ

子宮頸がんは予防できる？！ ～予防の大切さを学んだ看護学生だからこそ伝えたい～

京都橘大学ピアカウンセリングサークル

- 実施地域・場所
京都市山科区
(山科青少年活動センター)
- 参加学生数
7名

子宮頸がんに関する啓発のために

本プロジェクトは中学生・高校生・大学生に子宮頸がんについて知ってもらうことを目的に活動を開始しました。子宮頸がんは性交渉の経験がある女性なら誰でも感染する可能性があるウイルスが原因となり、特に20～30代の若い女性の罹患率が高いがんです。しかし、この病気について知る機会が少ないのが現状です。そこで、子宮頸がんに関する情報を広めるため、パンフレットやオリジナル消しゴムの作成、地域イベントへの参加、青少年活動センターでの企画を実施しました。



オリジナル消しゴムのケース



パンフレット

地域の子ども・中高生へ向けたグッズ作成・イベント参加

活動はパンフレットとオリジナル消しゴムの作成から始まりました。パンフレットは看護学科の教員や学術振興課の職員の協力を得て内容を精査し、より正確で分かりやすいものを作成しました。また、中高生が普段よく使用することが考えられる消しゴムに2次元コードを添付し、パンフレットの情報に簡単にアクセスできる工夫を施しました。

次に、2つのイベントに参加しました。1つ目は「やませいフェスタ」への出店で、50名以上の来場者にパンフレットと消しゴムを配布しました。小さな子どもが多かったため、保護者に積極的に声掛けを行い、「子宮頸がんについての情報を知りたかったのでよかった」等の前向きな反応を得ました。2つ目は山科青少年活動センターでの「大学生と一緒にクリスマス♪ ビーズストラップ作り&何でもトーク」です。この企画では7名の参加者と交流し、進路や恋愛、生理・ピルの話などを通じて理解を深める機会となりました。男性の参加者からも「家族に伝えたい」との声があり、幅広い層に影響を与えることができました。



やませいフェスティバル

啓発の難しさと学生であるからこそその強みを実感

これまでの活動で行政機関(山科区役所)や地域団体とのつながりを持つことができました。イベントを通じて「子宮頸がん」という言葉を知ってもらうことはできましたが、具体的な関心を高めるには至らなかったと思っています。そのため、今後は子宮頸がんの拡大画像などを用いて視覚的な情報を活用し、病気の詳細をより分かりやすく伝えていく必要があると考えています。

また、活動を進める中で学生は中高生と年齢が近く、生理や恋愛について相談しやすい存在であることを認識しました。今後は、大学生であるからこそその強みを生かしながら、行政機関とも連携し、中高生が安心して相談できる環境づくりを進めていきます。



ビーズストラップ作りの様子



大学生と一緒にクリスマス♪

山科「ふるさとの会」と連携した山科の 歴史遺産魅力発掘プロジェクト

京都橘大学考古学研究室 山科遺跡魅力発掘チーム

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
5名

山科「ふるさとの会」と山科の遺跡・遺産巡りを実施

本プロジェクトは、山科区を中心に活動する「ふるさとの会」の良さを活かしたまちづくりを進める会（以下、ふるさとの会）と連携し、地域の歴史や遺跡を広く伝えることを目的とした活動です。「ふるさとの会」は、歴史遺産学科と2021年度から協力して遺跡調査などを行ってきましたが、スタッフの高齢化が進み、活動の持続的な継続を思索していました。そこで、地域のニーズに応える形で、学生が協力しながら山科の遺跡・遺産巡りを企画しました。具体的には、11月10日（日）に「ふるさと山科発見 山科の遺跡・遺産巡り」を実施し、約70名の参加者とともに山科の歴史的遺産を巡る機会を提供しました。また、京都市営地下鉄柳辻駅の「アートロードなぎつじ」にて、山科区の考古資料を展示し、地域の歴史を広く発信する活動も行いました。



遺跡巡りでは学生自ら説明

対話の中で、歴史を共有することの大切さを実感

遺跡巡りでは、自治連合会関係者や議員の方々にも参加いただき、地域の歴史の価値をともに共有することができました。当日の資料として作成したパンフレットは好評で、「学生の解説が分かりやすかった」「地元の歴史に触れる良い機会になった」といった声が寄せられました。また、学生自身も事前に博物館での資料調査や報告書の精査を行い、計画立案力や情報収集能力を向上させる機会となりました。当日は、チームメンバーもふるさとの会の方々とともに宮道古墳などの遺跡を巡り、専門的な知識を交えながら参加者に解説を行いました。しかし、埋蔵文化財の説明は難しく、目に見えないものを伝えるためには、より具体的な資料や視覚的な工夫が必要であることを痛感しました。一方で、地域の方々と対話を重ねる中で、歴史を共有することの大切さを実感し、文化財の保存と活用において地域住民との協力が不可欠であることを学びました。



パンフレット

プロジェクトを継続し、地域の活性化につなげるために

「ふるさとの会」からは継続実施の要望があり、2025年度以降もプロジェクトを継続していく予定です。今回の課題を踏まえ、視覚的な資料を充実させ、より分かりやすい説明方法を取り入れることが求められます。例えば、遺跡の3D再現図や発掘時の写真を活用することで、参加者がより理解しやすい形にする工夫を検討しています。また、文化財専門職を目指す後輩たちにノウハウを伝え、持続的な活動の仕組みを作ることも重要です。地域の歴史を学び、それを多くの市民に伝えることで、山科に対する愛着を深めてもらい、地域の活性化につなげたいと考えています。今後も「ふるさとの会」との連携を強化しながら、地域に根ざした活動を継続し、歴史的遺産の魅力をより多くの人々に伝えていきます。



京都市考古資料館での資料調査



兵庫県立考古博物館での資料調査

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
5名

健康で長生きするために

ナースのたまご

地域の高齢者に対する健康教育の実践

今回のプロジェクトは、プライマリヘルスケアの授業で健康教育を経験してみて、健康教育に興味を持ったことをきっかけに、地域の高齢者の方々に対して熱中症に関する正しい知識を持ってもらいたいと考え実施しました。実際に地域の方々に健康教育を行い、興味を抱いてもらうにはどのような工夫が必要か、継続力を持つためには何が必要なのか学び、主体的に実施する力や周りの仲間と協力する計画性を身につけ、今後の地域での健康教育につなげていくため、2回のイベントの企画・運営に挑戦しました。

季節に応じた企画で取り入れやすく

それぞれの季節に応じた健康教育を行う事で高齢者自身がその日から取り入れやすいように工夫しました。

第一回は健康教育のため、夏バテや熱中症対策のクイズ大会と冷やしタオルの配布を企画しました。当初、準備段階では説明に難しい言葉や医療の専門用語を使っていましたが、教員からのアドバイスにより、対象の人に理解しやすい言葉・声の大きさ・トーンを意識する必要性に気づくことができました。また、クイズでは単に答えを発表するだけではなく対象者とコミュニケーションを取り、一方的な教育ではなく、双方向のコミュニケーションをとる工夫が必要であると考えました。

当日は大勢の参加者に参加してもらいましたが、流れを把握しきれていない高齢者への対応が行き届かず、大勢の参加者をまとめてプログラムを進めるという点で準備不足が目立ちました。

第二回では同じく「学まちチャレンジ！プロジェクト」に参加する作業療学科の有志とのコラボでコミュニティ・バンク京信山科支店での「秋のふれあい健康イベント」に参加し、ヒートショックに関するクイズ大会と認知症予防体操「コグニサイズ」を実施しました。第一回での反省を活かし、参加者全体に対応が行き届くようリハーサルを行って改善することができました。

実際の場면을想定する力を付ける

2回のイベントを通して、季節に対応した健康教育を実施することでより興味をもって取り組んでもらうことができました。今後は生活習慣予防や、認知症予防等のどの季節にも対応できるような健康教育を行うことで継続して実施することができるとも考えています。また、1回目に学んだことを2回目に取り入れ改善することができたものの、当日を迎えるとまだまだ準備や計画が必要な部分があることに気づきました。例えば、健康教育プログラムの流れやクイズの出し方を工夫する、当日のスケジュールを把握して各自役割分担を行い、スムーズに内容が進むように心掛ける等、実際の場면을想定して企画する力を付けていきたいです。



健康クイズ



体操を実施

運動で地域をつなGO!!

看護医療系サークルNICO、看護学部有志

- 実施地域・場所
京都市山科区
(本学キャンパス内)
- 参加学生数
12名

運動で地域住民の健康維持・向上を目指す

看護医療系サークルNICOは、もともと山科周辺地域でのボランティア活動を行う団体であり、これまで山科青少年活動センターなどで活動を展開してきました。今回の「学まちチャレンジ！プロジェクト」への参加は、指導教員の助言もあり、地域住民が健康を維持・向上させるための運動機会を提供することを目的として決定しました。本プロジェクトでは、特定の年齢層に限定せずに活動を実施することで、異なる世代間の交流を促進し、地域コミュニティの活性化に貢献することを目指しました。活動内容としては、看護学部の体力測定会や「たちばなこども食堂パーティー」(以下、こども食堂)の一企画として、年代に応じたルールを取り入れながら風船バレーボールを実施しました。夏の体力測定会では地域の老人クラブの方々約40名、冬のこども食堂では子ども50名とその保護者が参加し、幅広い世代に楽しんでいただきました。

高齢者も子どもも楽しめる工夫

本プロジェクトでは、参加者の体力や認知機能の向上を目指し、工夫を凝らしたプログラムを実施しました。例えば、体力測定会で実施した老人クラブ向けの風船バレーボールでは、風船を回す際にしりとりを取り入れることで、身体と脳を同時に活性化させるよう工夫しました。参加者からは「楽しく体を動かすことができた」「しりとりの難しさもあり、脳トレの必要性を実感した」といった感想をいただきました。また、手ぬぐいを活用した準備体操を行い、参加者が自宅でも継続して運動できるよう指導しました。



体力測定会での準備体操



体力測定会での風船バレー



たちばなこども食堂パーティー



一方、こども食堂では、よりバレーボールに近いルールでチーム対抗戦を実施し、子どもたちは夢中になってプレーしました。初対面の子ども同士が協力しながら試合を進める様子が見られ、スポーツを通じた交流の大切さを実感しました。「もっとやりたい」「また参加したい」といった声も多く寄せられ、継続的な活動の必要性を改めて認識しました。

サークルとしてボランティア活動を継続

本プロジェクトを通じて、異世代間交流の重要性や、運動を楽しみながら健康維持を促す工夫の必要性を学びました。一方で、しりとりを取り入れた風船バレーボールでは、同時に二つの動作を行うことの難易度が高く、ルールの調整が必要であると感じました。また、対戦形式になると子どもたちが熱中しすぎてぶつかる場面が見られ、安全対策の強化が課題として上がりました。今後の活動においても、NICOとしてのボランティア活動を継続し、今回の経験を今後の地域貢献に活かしていきたいと考えています。

備えようその瞬間

防災サークルFAST

- 実施地域・場所
京都市伏見区(コープ桃山)、
山科区(京都市立東総合支援
学校、本学キャンパス内)
- 参加学生数
7名

対象ごとに工夫した防災のイベントを実施

本プロジェクトでは、市民の防災意識の向上を目的に、さまざまな年齢層を対象としたイベントを実施しました。

まず、くらしの助け合いの会様とのコープ桃山でのイベント「もしも…の時に備えませんか！」では、心肺蘇生法(BLS)、一次救命処置、災害時に注意すべき病気とその予防に関する講義、防災食の試食会を行いました。10名が参加し、人形と訓練用AEDを使用した心肺蘇生法の実践や、身近な道具を使った応急処置の訓練を体験していただきました。また、避難所での感染症対策をまとめたポスターを掲示し、防災食の試食も実施しました。防災意識の向上に貢献できた一方で、ポスターを見てもうう仕掛け作りや、高齢者への胸骨圧迫やAEDの使用についての課題が見えました。今後は、高齢者が実施しやすいBLSの方法を考える必要があります。

「たちばなこども食堂パーティー」では、同じく防災に取り組まれている団体・ミンナソラノシタ様と共同で「こども防災ブース」を出展し、FASTは子ども向けの防災名札制作を実施しました。防災名札は、名前や保護者の連絡先を記載することで、災害時に一人になった際でも迅速に身元確認ができるものです。一人で行動する年齢の子どもたちが安全に過ごせるよう工夫しました。約50名の参加者からは防災名札について初めて知ったという声が多く寄せられ、個人情報の記載に対する懸念もありましたが、正しい使い方を伝えることで受け入れられました。反省点として、字が書けない子ども向けの制作活動も提供するなどの工夫が必要だと感じました。また、この防災名札は認知症の方にも有効であるため、今後は高齢者向けの活用も検討していきます。

「楽しく学ぼう！防災授業」では、京都市立東総合支援学校の中学部の生徒6名を対象に、ゴミ袋ポンチョの制作と防災クイズを実施しました。日常生活の中で使用している物が防災グッズとして活用できることを楽しく学んでもらい、防災意識の向上を図りました。実施する中で、障害を持つ方々と十分なコミュニケーションをとる上での事前の準備や練習の重要性を痛感しました。また、障害を持つ方の避難方法や避難所での受け入れ体制について学ぶ機会となり、地域と連携した支援の必要性を強く感じました。



消火器の使い方体験

より実用的で参加しやすい防災啓発活動へ

プロジェクトを通じて、特に子どもや高齢者、障害を持つ方々を対象とした防災の重要性を実感しました。今後は、より多くの市民が実践できるBLSの方法や、災害時の応急処置のワークショップを増やしていく予定です。さらに、障害を持つ方々の防災や避難についての理解を深めるため、専門家や地域団体と連携し、避難所での受け入れ体制の向上を目指します。今後も地域の方々と協力しながら、より実用的で多様な人々が参加しやすい防災啓発活動を展開していきます。



心肺蘇生法の講習



防災の授業



防災名札作り

地域交流拠点を活用した ふれあい健康イベント

コミュニティ・バンク京信山科支店×作業療法学科有志学生

コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、地域を活性化

本プロジェクトは、コミュニティ・バンク京信山科支店（以下、京信山科支店）と連携し、山科地域の活性化を目的とした活動を展開するもので、地域連携活動に関心を持つ健康科学部作業療法学科の有志学生によって結成されました。活動は京信山科支店のコミュニティルームで実施し、主に高齢者を対象とした脳トレクイズ、ものづくり、体操、レクリエーションなどを行いました。

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
9名



イベントのチラシ

季節やニーズに合わせて楽しめる健康・交流イベントを実施

2024度は、9月、11月、12月の3回のイベントで計58名が参加し、参加者同士や学生との交流を深め、健康意識を高めることができました。脳トレクイズでは、なぞなぞや病気の発症予防に関する問題を出題し、健康への意識向上を促しました。ものづくりでは、夏はマイうちわ、冬はクリスマスオーナメントボトルを制作し、季節感を楽しみながら交流を深めました。体操では、同じく「学まちチャレンジ！プロジェクト」で活動している「ナースのたまご」による認知症予防体操「コグニサイズ」を実施し、脳の活性化を図りました。さらに、レクリエーションとしてうちわを使った風船リレーや的あてゲームをチーム対抗で実施し、楽しみながら運動できる機会を提供しました。また、12月には京信山科支店で開催された「キラリ!!やましな2024」にも初参加し、短時間ながら多くの方に楽しんでいただくことができました。イベント後のアンケートでは、「学生との交流で元気が出た」「これからも参加したい」などの嬉しい声が多く寄せられ、すべてのイベントに参加した方も多数おられました。

より良いイベント運営を目指して

イベント運営を通じて、計画を立てることの重要性を学びました。例えば、制作の道具が不足し、参加者同士に譲り合っていたりしながら制作する場面があり、事前のシミュレーションが必要だったと感じました。また、学年の違う少人数のメンバーで運営したことから、顔を合わせる機会が少なく情報伝達が円滑に進まない場面もあり、報告・連絡・相談の徹底や、グループ内での情報共有が円滑な運営に欠かせないと実感しました。

今後の活動については、高齢者が健康について情報を得たり実践したりする機会が限られている中で、継続的に活動する必要性を強く感じました。このイベントが生活の楽しみになったという方が多い一方で、地域での交流の場はまだ不足しており、情報が限られた層にしか伝わっていないという課題も上がりました。より多くの方に継続的に参加していただくためには、イベント終了時に次回の予定を伝えたり、参加者の意見を取り入れたりすることが有効だと考えられます。今年度の成果と課題を次年度へ引き継ぎ、より良いイベントを実施できるよう努めたいと思います。



脳トレのスライド



オリジナルうちわ作り



うちわを使った風船リレー

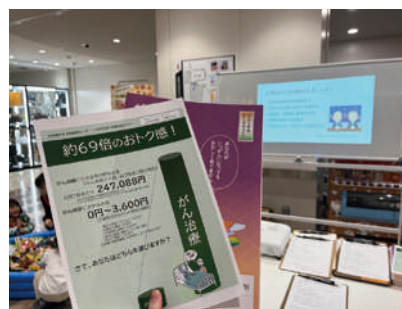
みんなで受けよう！がん検診

山科区役所×看護学科有志

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 参加学生数
5名

山科区役所と連携し、がん検診受診率向上を目指す

本プロジェクトは山科区役所保健福祉センター健康福祉部健康長寿推進課（以下、山科区役所健康長寿推進課）と連携して実施しました。山科区では、がん検診の受診率が京都市の平均に比べて低く、特に悪性新生物による死亡率が高いという健康課題が存在しています。このような背景を踏まえ、区民が健康づくりに取り組んでいくためにはどうしたらよいかというテーマで山科区役所健康長寿推進課の担当者の方と一緒に実施内容を検討しました。学生のメンバーが看護実習でがんの発見が遅れた患者様と出会い、がん検診の重要性を再認識したというエピソードをきっかけに、がん検診の受診率向上を目指した活動を行うことに決めました。



館内でチラシを配布

子育て世代にアプローチする工夫

本プロジェクトではイオンタウン山科榎辻にて、がん検診の重要性を周知し、受診率向上を図るための活動を行いました。具体的には、がん検診についての内容を説明したスライドをプロジェクターで流して周知しました。また、がん検診の受診率の低い子育て世代を狙って、輪投げやお菓子つかみ取りの遊びを実施しイベントへの参加を促し、保護者にはクイズ形式のアンケートを実施しました。40組の家族が参加し、54名の方にアンケートを実施しました。参加者からは「がん検診に行ってみます」といった声をいただき、がん検診の重要性を理解してもらうことができました。特に、がんになる人数が2人に1人であることを伝えた際、参加者の多くが驚かれていました。がんについて正しい知識を伝えることができた点は大きな成果です。他にも、イオンタウン山科榎辻の来館者100名ほどにチラシを配布することができました。

年代ごとに合わせた内容で効果的な活動に

プロジェクトの実施後、参加者の中にはがん検診の受診意向を示す方が増え、一定の効果を確認できました。しかし、実施中に感じたのは、高齢者の方が「がん検診の対象ではない」と考えているケースが多かったことです。そのため、がん検診の対象者について、すべての年代の人々に適切な知識を提供することが必要だと感じました。今回のように年代ごとに対象者を限定し、対象に合わせた実施内容を用意することで、より効果的な集客が期待できると思います。今後は、高齢者向けに特化したプログラムやイベントを実施し、さらに多くの人々にがん検診を受ける重要性を伝える活動を展開したいと考えています。



子育て世代でにぎわう様子



ブースの様子



スライドを見てクイズに回答

醍醐地域における子ども・ 子育て層が住みやすいまちづくり

醍醐いきいき市民活動センター×有志学生

- 実施地域・場所
京都市伏見区
- 参加学生数
5名

醍醐いきいき市民活動センターと連携

本プロジェクトでは、醍醐いきいき市民活動センターや地域の市民団体と連携し、子ども・子育て層が安心して過ごせる居場所づくりを目的としたイベントに参加しました。年間を通じて、「醍醐deワイワイ井戸端会議やんちゃMTG」「だいがゆめもり秋祭り」「醍醐いきいきフェスティバル」「醍醐(だいGO!)ゆめコレクション×未来へつなぐ架け橋プロジェクト」といった地域イベントにおいて、子ども向けのブース運営や企画に携わりました。特に「だいがゆめもり秋祭り」では、地域の子ども支援団体と協力し、250人の子どもが参加する思い出づくりイベントを実施しました。これらの活動を通じて、地域の子どもたちが安心して遊べる場の必要性や、地域団体との協力の重要性を学ぶことができました。



イベントのチラシ

不足する担い手同士の連携の大切さを実感

プロジェクトを通じて、イベント運営の担い手が不足していることが課題として上がりました。「醍醐(だいGO!)ゆめコレクション×未来へつなぐ架け橋プロジェクト」などのイベントを行う中で、より良いものにしていくためには運営体制を強化する必要があると感じました。しかし、新たな担い手の確保は簡単ではなく、今後も地域と連携しながら体制を整えていく必要があります。また、「だいがゆめもり秋祭り」では、地域の子ども食堂「みらい食堂」とのつながりが深まり、食育をテーマにした活動にも関わるようになりました。この経験を通して、同じ目的を持つ団体との連携の大切さや、地域を変えていくためには個人ではなく多くの人が関わるということが重要であることを学びました。

取り組みを継続し、地域に根付いた文化へ

今後も継続的な取り組みとして、私たちのチームが醍醐いきいき市民活動センターでの活動を続け、地域に根付いた文化として発展させていくことが重要だと考えています。プロジェクト全体を通じて、年間で500人以上の子どもたちと交流する機会がありました。イベントでは、子どもたちから「明日もあるの?」「次はいつ?」といった声が寄せられ、保護者からは「子どもたちが地域のイベントを楽しんでいるのが分かり、地域のつながりの大切さを実感した」との意見をいただきました。今後も地域の方々と協力しながら、継続可能な活動を模索し、地域の子どもたちが安心して過ごせる場を提供し続けたいと考えています。



子どもでにぎわうイベント

京都薬科大学との共同学生団体

ミーム ME-ME

「レコード鑑賞会」と「景観喫茶」の実施

- 実施地域・場所
京都市山科区
- 実施時期
2024年6月、11月、12月
- 指導教員名
大田 雅之
- 参加学生数
9名

共同学生団体ME-MEについて

共同学生団体ME-ME（ミーム）とは、京都橘大学と京都薬科大学が連携し、2020年に発足した団体です。両大学の学生が協力して、イベントを企画運営し、山科・醍醐地域の活性化を目指して活動しています。

「レコード鑑賞会」の実施

2024年6月22日に京都市立勤修小学校（京都市山科区）のフリースペースで「レコード鑑賞会」を実施しました。大学生と高齢者がフリースペース内で世代間交流することが主な目的であり、懐かしのレコードを聴き、昔の思い出を高齢者が大学生に語ることをコンセプトにしています。当日は、紅茶やお菓子を用意して鑑賞会をより楽しめるように工夫しました。約30名の高齢者の方にご参加頂き、大変好評であったため、是非とも来年度も継続して実施していきたいと思いました。



レコード鑑賞会

「景観喫茶（子育て交流会）」の実施

「景観喫茶」とは、公園や寺院など人が集まる場所でお茶を飲みながら会話や読書を楽しむ、中国・成都の屋外喫茶文化である「茶座」をモデルにしたものです。公園を活用するきっかけづくり、地域住民たちの交流の場の創出を目的として、2024年度は11月23日の山科区民まつりの日に、山科中央公園にて実施しました。今回は親子連れ・子育て世代の意見交換・交流の場を提供することを目的としていたため、「子育て交流会」という名目で実施しました。また、京都市からの依頼で山科のまちづくりに対する要望のアンケートも行い、118名の方が協力してくださいました。



子育て交流会

「たちばなこども食堂」への参加

2024年12月14日に京都橘大学内で開催された「たちばなこども食堂」では、2023年度に引き続き、わたがしブースを担当しました。山科区の子ども食堂を紹介するチラシと一緒にわたがしの引き換え券を配布し、7つの味から好きなわたがし1つと交換する仕組みで、計170個を配布しました。会場では子どもから大人まで楽しそうな様子がたくさん見られました。

今後の展開

SNSで活動内容の発信を続ける中で、今年度はSNSをきっかけに加入するメンバーも現れ、一つの成果を上げることができました。

今後も、山科・醍醐地域において、様々な課題に対して積極的にアプローチしていき、具体的な成果を生むような企画を検討します。



たちばなこども食堂でのわたがしブース

京都橘大学・京都薬科大学による 合同多職種連携教育

大学の垣根を越えたチーム医療教育

- 学科名
看護学科・理学療法学科・
作業療法学科
- 実施地域・場所
京都市山科区(京都薬科大学)
- 実施時期
2024年11月8日(金)
- 指導教員名
松本 賢哉、中橋 苗代、
小田桐 匡、原田 瞬、白岩 加代子
- 参加学生数
36名(ほか、京都薬科大学12名)

多様化する患者対応のために チーム医療を推進できる人材育成を目指して

京都薬科大学(京都市山科区)で、多職種連携教育(IPE:Interprofessional Education)を実施しました。これは、多様化する患者対応のためにチーム医療を推進できる人材育成を目的として行われ、本学からは看護学科、理学療法学科、作業療法学科の学生が、京都薬科大学からは薬学部の学生が参加しました。当日は、看護師・理学療法士・作業療法士・薬剤師の4つの立場からシナリオ事例に沿って、患者さまや患者さまを取り巻く環境についての状況把握や介入の仕方について議論をしました。1部では、学科ごとのグループで、それぞれの職種でどのように患者さまの状況をとらえ、向き合うかを議論しました。2部では、学科混合のグループで各職種の観点の違いや、介入できる点・介入してほしい点などを共有し、具体的にどのように協働できるか議論を深めました。また、1部、2部それぞれでグループごとに意見をまとめ発表をしました。

IPE研修の目的は、異なる医療教育を受けている学生が、垣根を越えて学び・話し合うことを通じて、それぞれの職種の強みや弱みを知りチーム医療に貢献することです。この研修は2016年度から本学看護学部と京都薬科大学薬学部で開始され、理学療法学科と作業療法学科がのちに加わり9回目となります。各職種における観点の違いに理解を深め合いながら、何が患者さまにとってより良いのかと議論をしたり、専門的な用語や見解に質問し合ったりする様子がみられ、活発な研修となりました。

<プログラムの詳細>

■ 当日のスケジュール

時間	内容
12:30~12:45	受付開始、事前アンケート回収
12:45~12:55	ガイダンス
13:00~13:50	【1部】同学科SGD※(50分)
14:00~14:20	グループ発表(1G各3分)
14:30~16:00	【2部】学科混成SGD(90分)
16:10~17:00	グループ発表(1G各5分・5分質疑)
17:00~17:30	講評、事後アンケート記入

※SGD: Small Group Discussion



- 主催
まちづくり研究会
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2024年7月5日(金)
- 指導教員名
大田 雅之
- 参加学生数
25名

七夕陶灯路2024

山科の伝統産業を用いた灯りイベント

山科の伝統工芸品を活かした灯りのイベント

今年も「まちづくり研究会」が主催となり、山科の夕暮れ時を優しく照らす「七夕陶灯路2024」が本学キャンパスにて開催され、多くの地域住民がろうそくの灯りに包まれながら賑やかなひとときを過ごしました。本イベントでは、山科地域の伝統工芸品である「京焼・清水焼」と、揺らめくろうそくの灯りが織りなす幻想的な空間が演出され、参加者に安らぎのひとときを提供しました。大学を地域住民の交流の場としても認識してもらうことを目的に、今年は「縁日」をコンセプトに取り入れ、屋台風の遊びブースをプログラムに組み込みました。また、会場の装飾やスタッフの衣装にも工夫を凝らし、縁日の雰囲気をもより一層楽しんでいただけるよう配慮しました。



多彩なプログラムを用意する中で、外部団体・企業とも連携

イベント当日は陶灯路や遊びブースに加え、スタンプラリー、本学の箏曲部および吹奏楽部による演奏会、さらには「京都市やましな学園」(以下、やましな学園)のハンドメイド製品の販売など、多彩なプログラムを実施しました。

スタンプラリーでは、参加者が各プログラムを巡るごとに学生スタッフがスタンプを押し、単なる屋台での体験にとどまらず、イベント全体を通じた充足感を味わってもらうことを目的としました。また、スタンプを各ブースに分散配置することで、すべてのプログラムに参加しやすくなるよう工夫しました。

物販ブースでは、「やましな学園」で制作されたハンドメイドのオリジナルしおりやファイル、冷やし焼き芋を販売しました。焼き芋は冷やすことで甘みが増し、参加者やスタッフからも好評で、暑い夏にぴったりの一品となりました。

さらに大学を通じて外部企業から提案を受け、会場の一部にアウトドア用のチェアやランタンを配置することになりました。製品の展示スペースとしてだけでなく、参加者の休憩スペースとしても活用し、縁日とは異なる趣の空間を提供することで、参加者が夏の雰囲気を味わいながら実際に製品に触れる機会を創出することができました。また、スペースの設置にあたってまちづくり研究会の学生と大学職員、外部企業との打ち合わせも行い、大変貴重な経験となりました。

本イベントを通じて、世代間交流や外部との連携の難しさ、そして地域とのつながりの重要性を改めて実感する機会となりました。



外部企業との協同による休憩スペース



「やましな学園」提供の焼き芋を販売



やきものにふれる遊びブース



箏曲部による演奏

- 主催
京都橘大学 地域連携センター
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2024年7月27日(土)
- 参加学生数
115名

たちばなサイエンスデー2024

大学の研究にふれてみよう

夏休みの児童向けイベント

2024年7月27日(土)、本学キャンパスにて「たちばなサイエンスデー2024」を開催しました。

本イベントは「大学の研究にふれてみよう」をテーマに2021年度から開催しており、毎年恒例のイベントとして地域の児童たちに多く参加いただいています。4回目となる本年は、下記の通り本学設置の15学科による15ブースに加え、学生団体による3ブースも設置し、それぞれに趣向を凝らした内容でさまざまな体験やものづくりを行い、のべ508名の児童に参加いただきました。

参加された小学1年生から小学6年生の児童たちは一日を通してとても楽しそうな様子で、保護者の皆さまからは「子どもが知ることのできない分野に体験を通して出会わせていただき大変有意義な経験でした」「体験しながら学びもあって、息子はもちろん、親も楽しめました」など満足の声を多くいただきました。また、ブースに携わった教員や学生にとっても、児童や保護者との交流を通して多くの学びを得ることができ、地域への貢献とともに学生の成長にもつながるイベントとなりました。



経営学科ブースでは給付けで伝統産業に触れました

学科	担当教員	テーマ
情報工学科	西出 俊准 教授	ドローン障害物競争～障害物を避けて1位を目指そう～
建築デザイン学科	平井 良祐 助教	あなたも小さな建築家！すてきな家を設計しよう
日本語日本文学科	辻本 千鶴 教授	お話玉手箱 パン屋さんで遊ぼう！
歴史学科	尾下 成敏 教授	サインをつくってみよう！
歴史遺産学科	小林 裕子 教授	古代エジプトの護符でバッグチャームをつくろう
国際英語学科	大澤 康二 助教 エリス、メグ 専任講師	Let's enjoy English！！カードゲームで遊ぼう
児童教育学科	池田 修 教授	甲骨文字でハンコやキーホルダーを作ろう！
総合心理学科	田中 芳幸 教授	ココロが変わると世界が変わる～ゲームを通じて感じ方の不思議を体験しよう！～
経済学科	矢口 満 教授	あなたはやりくり上手？カレーの材料を集めよう！
経営学科	大田 雅之 助教	山科の伝統産業「京焼・清水焼」に給付けをしてみよう！
看護学科	川村 晃右 准教授	みんなの憧れ！！看護師の仕事を体験してみよう！
理学療法学科	菊地 雄貴 助教	ヒトの動きを操作しちゃおう！？『感覚』の魔法を体験しよう！
作業療法学科	中井 秀昭 助教	指先王になれ！～こころとからだについて学んでみよう～
救急救命学科	黒崎 久訓 専任講師	命を救うお仕事！救急救命士を体験してみよう！
臨床検査学科	所司 睦文 教授	ハカセになって、からだの「フシギ」を調べよう



建築デザイン学科ブースではオリジナルの建築模型を作成



情報工学科ブースではドローンを操作



臨床検査学科ブースではからだの「フシギ」を調査

- 主催
京都橘大学 地域連携センター
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2024年12月15日(日)
- 参加学生数
35名

たちばなこども食堂パーティー2024

世代を超えた地域コミュニティ創造の場

多世代交流の地域拠点を目指して

「たちばなこども食堂」は、食を通じて対話を重ね、様々な世代が交流できる地域拠点となることを目的に、2022年の冬に第1回を開催しました。その翌年(2023年)には山科区内のこども食堂をはじめ地域の福祉に貢献している団体の活動を参加者に知ってもらうことで必要な支援が行き届くよう、「こども食堂PRブース」を設ける取り組みを始めました。3年目となる本年は、この取り組みを強化するため「山科青少年活動センター」「まちのちゃぶ台ネットワーク山科」のご協力のもと、実際に地域で活動されている団体の皆さまにもブース出展の形でご参加いただくイベントとして、「たちばなこども食堂パーティー」と銘打って開催いたしました。

地域のこども食堂等の団体や学生団体が出展

当日は「たちばなこども食堂」としてお弁当(1食200円)を300名近くの方にご利用いただき、同時開催の「げんKids★応援隊」による「クリスマス企画」とあわせ、「たちばなこども食堂パーティー」出展ブースを楽しんでいただくことができました。参加者からは、「学生さんたちがとても優しく親切に声をかけてくれてとても良かった」「地域でこども食堂が開催されていることを知らなかったが、利用してみたいと思った」といった声をいただき、参加した地域のこどもたちと学生が楽しく交流できるイベントとなりました。今後も地域のこども食堂と連携しながら、地域の活性化に貢献できるよう活動を展開していきます。



お弁当を提供



色とりどりのわたがしが大好評

<たちばなこども食堂出展ブース一覧>

■ 外部団体

外部団体出展内容	団体名
アイスクリーム・焼き芋販売	やましな学園
フランクフルト・パウンドケーキ・ドリンク販売	こども食堂 プランタン
防災食配布・防災グッズ販売	ミンナソラノシタ
ベビー・キッズ用品交換会	子育て応援サークル はざまカフェ
こども食堂PR(チラシ配布)	子どもお弁当食堂 サンフラワー

■ 学生団体

学生団体等出展内容	団体名
わたがし	共同学生団体ME-ME
京焼・清水焼箸置き絵付け体験	まちづくり研究会
風船バレー	看護医療系サークルNICO、経営学科大野ゼミ
防災名札作り	防災サークルFAST
運営ボランティア	こどもサポート研究会、看護学科・作業療法学科有志



京焼・清水焼箸置き絵付け体験



防災名札作り



風船バレー

- 実施地域・場所
京都市伏見区(醍醐中山団地)
- 実施時期
2024年10月
- 指導教員名
大田 雅之
- 参加学生数
5名

醍醐中山団地 秋まつり・盆踊り

地域住民と学生が共に創るコミュニティの絆と活気

醍醐中山団地学生シェアルームの概要

本学では、2015年から地域貢献の一環として京都市営醍醐中山団地と連携した取り組みを行っています。京都市から棟の1階部分を借り受け、「地域連携センター 醍醐中山団地分室」を開設し、ここを拠点として、学生や教職員が団地内の高齢者支援や子育て世帯との交流活動を定期的に実施しています。また、学生のためのシェアルームも併設し、清掃活動や季節ごとのイベントに参加するなど、入居した学生が団地の一員として日常的に交流することで、世代間の繋がり構築を推進しています。



盆踊り

2024年度の実績

毎年、年に3回ほど棟の一斉掃除活動が行われ、今年度は6月、9月、12月に行われました。この清掃活動において電球交換や落ち葉の掃除など、高齢化が進む中で団地住民の方がなかなかできない作業に学生が積極的に参加しました。

10月19日には醍醐中山団地で秋まつり・盆踊りが開催され、団地住民と学生が協力し、地域全体で楽しめる催しが行われました。開催に先立って、盆踊りの練習が行われ、学生も参加しました。自治会長さんを中心に住民の皆さんと踊りの振り付けを覚え、また、たくさん話をする中で住民と学生の交流が生まれ一体感も深まりました。

当日は学生もスーパーボールすくいやわたがしの提供を行い、来場者を楽しませるお手伝いをしました。特にわたがしは子どもから高齢者まで多くの人に好評で、大きなわたがしを手にした姿が印象的でした。幅広い世代の参加者が楽しむ姿を見て、地域コミュニティの絆を再確認しました。さらに、イベントを彩る催しとして、京都橘大学吹奏楽部による演奏や、醍醐中山保育園の先生方による迫力ある和太鼓の演奏も披露されました。参加者の皆さんが学生たちの演奏に手拍子するなど、一体感を持ってまつりを堪能している姿が印象的でした。

地域住民だけでなく、学生や地域団体が協力し合い、醍醐中山団地を盛り上げるイベントに参加できたことは、大きな学びの機会となりました。近年、自治会活動への参加意識が低下している地域が多いなか、団地全体が一つになり、地域の活気を実感できる良い経験でした。この活動を通じて、地域に貢献する意義について改めて考えることができました。



たこ焼き



わたがし



吹奏楽部による演奏

草津市地域保育士・保育教諭・幼稚園教諭向けスキルアップ研修

草津市全体の保育者の交流と人材育成

- 主催
京都橘学園 保育事業部
- 実施地域・場所
滋賀県草津市
- 実施時期
2024年5月、6月、9月
- 指導教員名
関根 和弘、田中 真紀、佐野 仁美
- 参加学生数
のべ76名(各回約25名)

草津市の保育のスキルアップを目指す

認定こども園たちばな大路こども園は、2018年、草津市に開設されました。これを契機として草津市の幼児教育・保育の質を高めるため、専門的な学びの機会に寄与していきたいと考え、2022年度より草津市と共催で本学の教員による保育者向けの研修会を実施しています。たちばな大路こども園だけでなく草津市全体の保育者間での情報交換や意見交流を通して、保育のスキルアップと質の向上を目指すこととして取り組んでいます。



講座の風景

2024年度の活動報告と成果

「子どものウェルビーイングために、保育者のスキルアップ研修」

講座のテーマは保育者が日々感じている悩み・知りたいことに焦点を当て、すぐに保育に取り入れられる内容を意識して企画しました。また、保育のスキルがより高められるように実践を中心とした講義内容で実施し、全3回でのべ76名(各回25～26名)の参加がありました。

第1回目の講座では、AEDに係る具体的な子どもの事故の症例の紹介の後、実際に事故が起こったと想定し、小グループでのロールプレイを中心にAEDの使用方法などを学びました。参加型で行う演習部分に重点を置いたことで、受講者からは「事故予防や日頃の安全の点検・確認の大切さを、すぐに保育現場で活かしていきたいと思った」などの感想が得られ、子どもの命を守ることや安全についての意識が深められた研修会となりました。

第2回目の講座では、近年幼児の運動能力の低下が大きな問題となっていることに焦点をあて、「体のバランスをとる動き、移動する動き」「用具などを操作する動き」など多様な運動を経験する機会を遊びの中で作っていただけるように、テーマ内容を設定しました。身近な素材を使った様々な運動遊びを紹介し実際に受講者に実践してもらうことで、明日からの保育に取り入れられる内容となり、好評を得た研修でした。

第3回目の講座では、音楽を通じた保育をテーマにとりあげました。「日常の中に拍やリズムなど音楽の表現力を育てていくという内容に学びを得た」や「一つの“数え歌”を完成させるグループワークの楽しさを共有することができた」などの感想があり、受講者にとって、改めて音楽の表現活動を取り入れた保育を楽しく実践するための気づきが得られた研修になりました。

	テーマ	講師
1	蘇生ガイドライン(小児蘇生)G2020 知ってますか？	健康科学部 救急救命学科 関根 和弘 教授
2	幼児の運動遊びと運動発達	発達教育学部 児童教育学科 田中 真紀 教授
3	子どもの音楽的創造性を育む表現遊び	発達教育学部 児童教育学科 佐野 仁美 教授



チームを組んでAED訓練の様子



小児蘇生の講習



レジ袋を使って運動遊びの実践



グループで数え歌の表現遊びの発表風景

- 学科名
情報工学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2025年2月1日(土)
- 指導教員名
杉浦 昌
- 参加学生数
7名

伏見区役所醍醐支所×京都橘大学 3Dプリンタ体験学習

小学生を対象とした3DプリンタによるSTEAM教育の実践

STEAM教育の重要性

社会のあらゆる分野でAIやITなど新しい技術が活用されています。このため、世界中でSTEAM教育(スティーム教育)の重要性が認識されるようになってきました。STEAM教育とは、「科学」「テクノロジー」「エンジニアリング」「アート(リベラルアーツ)」「数学」を総合的に教える教育のことで、日本政府もこれを推進しようとしています。

そこで今回、伏見区役所醍醐支所(以下、醍醐支所)の子どもはぐくみ室と連携して醍醐地区の二十数名の小学生を対象とする3Dプリンタの体験学習会を開催しました。3DプリンタはSTEAM教育として大変効果があるものの一つと言われており、京都橘大学の「ものづくり」の拠点であるクリエーションラボの設備を活用しました。

学生が子どもたちを直接サポート

今回は、普段から3Dプリンタを使い慣れている学生数名が子どもたちを直接サポートしました。まず最初に3Dプリンタの原理をわかりやすく説明した後、自分の名前を入れたキーホルダーを子どもたち自身が設計しました。設計にはパソコン上で動作するクラウド型の教育用CADソフト(造形物を設計するソフト)を用いました。3Dプリンタの操作は安全のため学生が行い、子どもたちはそれを見学しました。

自分の名前を入れたネームプレートの設計

ネームプレートの設計では一つのテーブルに1人以上の学生がつき、手本を示したりアドバイスしたりしました。パソコンを使いこなしている子どもは一人でどんどん設計を進めていました。そうでない子どもも、学生が少し教えるとすぐに慣れて自分で設計していきました。

注目度の高い3Dプリンタの動き

3Dプリンタが動きだすと、子どもたちは集まってその動きを眺めていました。3Dプリンタが造形していく様子はとても面白く新鮮な体験だったようです。

子どもたちの高い能力

3Dプリンタの出力を待つ間、子どもたちはさらにCADソフトを使ってパソコン画面の中でさまざまな形を造形して楽しんでいました。あっという間に新しい道具を使いこなす子どもたちの高い能力には驚かされました。

終わりに

終了後のアンケートでは全ての子どもたちに好評でした。今後の活動の参考にいたします。

なお、3Dプリンタの造形に想定よりも時間がかかってしまい、その場で造形物をお渡しできなかった子どもたちには、醍醐支所が後日造形物を郵送して下さいました。この場を借りてお礼申し上げます。



3Dプリンタの動きに注目



3Dプリンタの原理を説明



学生が直接サポート

駅ナカアートプロジェクト、 Art Under the Shijo

学生が駅空間内のアート企画・製作に挑戦

- 学科名
建築デザイン学科
- 実施地域・場所
京都市山科区、中京区
- 実施時期
2024年12月～2025年2月
- 指導教員名
河野 良平
- 参加学生数
33名
(2回生21名、3回生12名)

駅空間を明るく楽しいものにするプロジェクト

駅ナカアートプロジェクトは、地下鉄の駅構内にアート作品を掲示することによって、駅空間を明るく楽しいものにすべく取り組みました。駅ナカアートには2回生河野ゼミの21人が参加し、ゼミ活動の一環として作品制作に取り組みました。今年は「山科なす」をテーマとし、駅の壁面のタイルと同じサイズのドットで茄子を表現しました。テーマを決めるに際し、ゼミ内で山科や栂辻と関わりのある建物、場所や特産品について調べ、全員がゼミで報告し情報を共有しました。同様に壁面装飾についてもゼミ内発表を行い、様々な表現方法や使用されている材料について調べました。それらの内容を踏まえ、まずは試作品を制作し、実際に作る前に検討しました。作品は2つ制作し、1つは栂辻駅構内、もう一つは烏丸御池駅構内に設置しました。また、学外での活動として、他大学や京都市交通局との交流がありました。10月に京都美術工芸大学で意見交換会有り、ゼミ代表者が作品のテーマや制作状況を報告しました。12月には同じく京都美術工芸大学でジョイントミーティングがあり、完成した作品について各大学から報告し、京都市から感謝状を頂きました。



感謝状贈呈式



栂辻駅の作品



制作の様子

作品が市民の方々と触れ合う機会に

一方、Art Under the Shijoは阪急河原町駅と烏丸駅間の地下道にアート作品を掲示するもので、こちらも地下道を明るく楽しい空間にしようとしてしました。地下道の両側の壁面にそれぞれ別のデザインを提案し、併せて1つの作品になるよう考えました。こちらは3回生河野ゼミの12人が参加しました。コンペ形式だったので、応募案を後期のゼミで考え始めました。提案する四条の地下道の壁面は片側12m、高さは3メートルあるため、細長い作品を想定しました。アート作品の提案ですが、素材、空間や景色をテーマにしようと考え、大学周辺や京都市内に見学へ行きました。10月には他の応募者も含めたプレゼン発表会有り、審査員の前でゼミ代表者が応募案について説明しました。無事に審査を通過し、12月上旬に完成した作品を設置しました。設置後もたびたび補修などで現地を訪れますが、通行人、卒業生や観光客の方々から質問や感想などの声を頂きます。こちらも12月に感謝状贈呈式がありゼミ代表者2名が参加しました。

これら2つのプロジェクトは今年初めての試みとして、時期と場所ができるだけ長く重なるよう計画されました。駅や地下道を明るく楽しい空間とする作品を制作し、それら作品を通して市民の方々と触れ合う機会ができました。



四条の地下道の作品

- 学科名
歴史遺産学科
- 実施地域・場所
滋賀県大津市(坂本城跡)
- 実施時期
2024年7月～10月
- 指導教員名
南 健太郎
- 参加学生数
17名

琵琶湖湖底遺跡における 水中考古学の実践

“幻の城”坂本城の実態解明へ

水中考古学による遺跡の調査

この活動は滋賀県大津市と本学で2023年に交わした「大津市内中世遺跡詳細分布調査に関する覚書」に基づく遺跡の調査です。2024年度は明智光秀が築城した“幻の城”とも呼ばれる坂本城跡(1571年築城)の水中考古学的調査を行いました。水中考古学とは海や湖などの水中や水際に存在する遺跡を調査研究するものです。坂本城跡は石垣の一部が琵琶湖の湖底に残されているため、水中での地形測量やスキューバダイビングでの潜水によって、石垣や当時の人々が使用した食器や調理具などを探索しました。



坂本城跡でのスキューバダイビング調査



水中の遺跡の調査は日本ではまだそれほど浸透していませんが、四方を海に囲まれ、湖や川が日常生活に密着していることから、今後その重要度は高まることが予想されています。本学科ではそのような水中遺跡の調査を実践することで、様々な環境下にある遺跡の調査、保存、継承を推進する人材の育成に取り組んでいます。

琵琶湖での水中考古学の実践

今年度は、湖底の地形測量とスキューバダイビングによる潜水調査を行いました。地形測量は7月末から8月前半にかけて実施しましたが、夏場の猛暑はすさまじく、こまめに休憩を挟むスケジュールを組んで対応しました。また、夏場の猛暑の影響で水中の水草の繁茂が著しかったため、スキューバダイビングによる潜水調査を水温が低下して植物の成長がおさえられる10月中旬に実施しました。しかし、この時期は一転して急速に暑さがやわらぎ、水温の低下速度も予想以上に速かったため、スキューバダイビングは寒さとの闘いとなりました。このような刻々と変化する自然環境中での調査でしたが、学生たちは各自で暑さ、寒さ対策をし、果敢に水中での調査に励みました。学生たちの頑張りによって、今回の調査では明智光秀の時代のもと考えられる食器や調理具、貯蔵具、銅製の銭などが発見され、さらに城の周辺地形の詳細なデータを得ることができました。これらは“幻の城”と形容される坂本城の実態に迫る貴重な成果となると考えられます。



坂本城跡での水中測量調査

遺跡の魅力を発信

今年度の調査成果は、本学科が毎年刊行している『京都橘大学歴史遺産調査報告』で社会に発信します。本書は学生自ら編集するもので、調査成果をいかにわかりやすく伝えるかを皆で検討しながら作業を進めています。自分の考え、アイデアをアウトプットする方法を身に着け、今後の学生生活や卒業後のステージで活かしてほしいと願っています。



報告書作成に向けた調査図面整理作業

山科警察署員向けの英語講座

国際英語学科による教員・学生協働型の地域貢献活動

- 学科名
国際英語学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2025年1～2月
- 指導教員名
早川 有香、コネリー、クリストファー、
アーミティジ、クリスティン、
大澤 康二、ゲツ、パトリック
- 参加学生数
4名

英語コミュニケーション力向上のための講座を実施

国際英語学部国際英語学科は、2017年以来、山科警察署員を対象とした英語講座を実施しています。国内外から京都・滋賀を訪れる観光客数が急速に増加する中で、京都駅からのアクセスも良く、多くの観光スポットを有する山科地域に所在する同署においては、様々な場面で英語を用いた対応が求められています。

こうした状況を踏まえ、同署員の方々が業務において、心理的な障壁なく、英語を用いてスムーズな状況把握や情報収集、当事者への対応等が可能となるよう、本講座では、一般的な英会話スキルを向上させることを目的として実施しました。2024年度は、2025年1月から2月までの期間に、計4回(100分/回)実施しました。各回には、およそ10名前後の方々にご参加いただきました。

講座では、英語習得レベルに関わらず、全受講者が主体的に参画できるための工夫として、取り組みやすいテーマを設定し、ペアワークやロールプレイで行うなど、演習を中心に構成しました。アシスタント学生と講師が、英語での表現方法や会話中におけるポイントなどについて個別にアドバイスをしながら、受講者が気兼ねなく参画できる環境を作り出す工夫をした結果、受講者からは、「話しやすい雰囲気の中、楽しみながら英語コミュニケーションをとることができ、有意義な時間であった」「英語初心者でも取り組みやすい内容だったため、今後も継続的に参加して、語学力の向上を目指していきたい」など、良好なフィードバックを得ました。



講座の様子

本活動を通じた学生の学び

講座では、本学科の3回生4名がアシスタントを務め、ディスカッションの活性化や講座のスムーズな進行に貢献しました。1年間の留学を終えた3回生にとっては、自らの英語力を運用する能力や、コミュニケーションスキル等の向上のためのアウトプットの機会として、意義の高い活動となっています。

アシスタント学生は、教員との事前打ち合わせにも積極的に参加し、淀みなく英語フレーズを話すための準備を入念に行った上で、当日に臨みました。アシスタントとしての自覚をもって講座の運営に携わることで、英語でのコミュニケーションを楽しみながらも、地域社会の一員として、地域課題にどのように向き合うかということを考える貴重な学びの機会となりました。



学生によるサポートの様子

地域との豊かな連携を広げる —げんKids★応援隊—

教職・保育職をめざす学生の成長の場に

活動の幅が広がる2024年度

今年度は昨年度よりもさらに活動の幅が広がり、学内や山科区でのイベントに加え、他の地域でのイベントにも参加しました。デイキャンプや夏祭りなどの企画・運営をはじめ、勸修おやじの会や救急救命サークルTURFとは、今年度も変わらず、一緒に楽しみながらイベントを運営することができました。また、昨年度より、笠原寺のイベントや大学付近の地域の地藏盆、下京区の子ども向けイベントにも参加するようにと声をかけていただき、より一層活動の充実を図ることができました。

また、京都市文化市民局地域自治推進室や、山科区長ともお話しさせていただく機会があり、「げんKids★応援隊」の活動について知っていただくことができました。今後もさまざまな方面からお声かけいただけたと思います。

多様な活動を展開

前期は、5月に「つつじまつり」(紙芝居など)、6月に「勸修小学校デイキャンプ」(キャンプファイヤーなど)、7月に「サッカー部のイベント」(ミニゲームの補助)「勸修小学校の夏祭り」(射的ブースの補助)、8月に「花山児童館こども食堂」(レクリエーション)に参加しました。

後期は、9月に「下京子ども祭」(子ども向けの制作コーナーの補助)、学内での「夏祭り×ハロウィンイベント」(遊びブース・制作ブース)、「勸修小学校ふれあいの集い」(射的ブースの補助)、10月に「小野幼稚園フリーマーケット」(制作コーナーの補助)、11月に「大谷選手のグローブで野球をしてみた」(子どもと野球・遊び)の取り組みと「山科区民まつり」(エアー遊具の補助)、12月に学内で「たちばなこども食堂パーティー」と同時開催の「クリスマス企画」(遊びブース・制作ブース・ビンゴ大会)を実施しました。2025年2月には、恒例の「4回生によるスペシャルイベント」を開催しました。



大谷選手のグローブで野球をしてみた

コロナ以前の活動を創りだす

新型コロナウイルスへの対応が大きく変わったことで、活動の制限がほとんどなくなり、学生たちが入学する前に行われていた形に戻りつつあります。今後さらに活動の幅が広がると考えます。もちろん、そのぶん大変なことは増えると思いますが、教職・保育職をめざす学生たちの成長の場であり続けてほしいと思います。



勸修小学校デイキャンプ



勸修小学校の夏祭り



クリスマス企画

- 学科名
総合心理学科
- 実施地域・場所
滋賀県草津市(草津駅付近)
- 実施時期
2024年11月23日(土)
- 指導教員名
藤原 勇
- 参加学生数
16名
(うち2名は通信教育課程)

草津駅東口付近の来街者調査で まちづくりに貢献

「マーケティング調査演習」における実践的教育

学びを活かし、草津のさらなる活性化を目指す

本学は2014年12月に滋賀県草津市と包括協定を結び、さまざまな地域連携活動を展開してきました。そうした縁もあり、「マーケティング調査演習」の授業では、草津のさらなる活性化に寄与することを目的に、草津駅東口付近で来街者調査を実施してきました。

今年度は草津駅東口付近にある3つの商業施設エルティ(Lty932、近鉄百貨店草津店、くさつ平和堂)に拠点を設置して調査を実施しました。本調査の分析結果は、各商業施設や草津市役所、草津まちづくり株式会社の関係者を交えた報告会で共有され、今後の草津市のまちづくりや各商業施設のマーケティングなどに役立てられます。

このように、大学で学んだ社会調査法や心理統計、心理学の知識を調査計画や分析、報告で活かし、それらの活動が地域や社会にどう貢献するかを学生が直に経験して学べる点に本授業の教育的意義があります。

社会調査法や心理統計などの知識を実践的に学ぶ

本調査を実施した「マーケティング調査演習」は3回生配当の後期開講科目であり、社会調査法や心理統計、幅広い心理学科目の学習を積み重ねた上で受講し、それらを実践的に活用する演習科目です。

今年度の具体的な活動概要は次の通りです。

- ・ 9月から調査実施までに、調査概要や過去の調査事例の紹介、社会調査法の振り返りなどを実施。その上で、学生が3つの商業施設別のグループに分かれ、各商業施設の関係者から事前に聞き取った課題などの意見を踏まえ、課題解決の糸口を探るための調査票の項目設計を実施。
- ・ 実査に向けて、調査票や調査の告知ポスターの作成などを実施。
- ・ 11月23日(土)に草津駅東口付近の各商業施設で、学生が調査員として来街者に声をかけて調査協力を依頼し、同意を得て、調査票を用いた面接調査を実施。今年度は合計99名の回答を得た。
- ・ 調査後、統計解析ソフトウェアを用いた量的データの分析や質的データの分析、および、調査結果の報告会に向けたプレゼンテーションの準備を実施。
- ・ 2025年2月18日に各商業施設などの関係者を交え、調査結果の報告会を実施。学生は担当した各商業施設の結果を報告し、その内容を踏まえて各商業施設などの関係者と意見交換。

これらの活動を通して、学生は社会調査法や心理統計などの知識を実践的に学ぶことができます。加えて、調査票の項目設計や分析、報告会などはグループワークが中心になるため、作業を通して協調性やコミュニケーション・スキルを磨くことにもつながります。



Lty932における調査風景



くさつ平和堂における調査風景



調査に向けたグループワーク

地域の需要を掘り起こす！「農福連携」に向けた福祉事業所意向調査プロジェクト in 与謝野町

学生を中心として地域調査実践

農業と福祉を結び付け、地域経済を元気にする活動

京都府与謝郡与謝野町は、本学地域連携センターと地域経済・社会調査・分析に関する覚書を締結しています。産官学連携推進のため、京都府による補助金を活用し「農福連携」の可能性について調査を実施しました。

学生が中心となった調査・研究活動

「農福連携」調査の中心を担ったのは経済学科小山ゼミ3回生です。京都府北部に位置し、農業と繊維産業の盛んな与謝野町では、町経済・社会の構造が変容し、伝統産業を中心とした経済から福祉事業などの多様なサービス業や建設業、製造業が活躍する経済へと変貌を遂げています。

地域経済の活力を維持し、地域内経済循環を促進することで、豊かで住みやすいまちにするため、農業と福祉が連携し、地産地消と農業生産を拡大する「農福連携」への期待が高まっています。そこで、本学学生を中心に、農業事業者、福祉事業者を対象としたアンケート調査とヒアリング調査を実施しました。また、学内では与謝野町の産業や社会についての統計分析を行い、基礎データの蓄積を行いました。

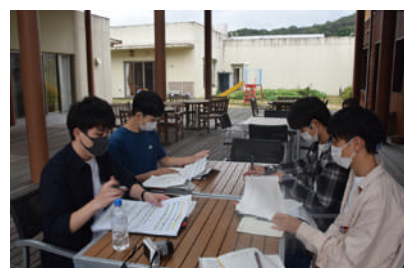
この調査プロジェクト実行にあたっては、与謝野町産業観光課の全面的なバックアップをいただいたほか、京都府の補助金である令和6年度「大学・学生とともにのばす京都プロジェクト共同事業費補助金」による支援をいただきました。

現地調査の成果と課題

福祉事業者を対象としたアンケート調査、ヒアリング調査によって、事業者の多くは、地産地消に積極的であり、すでに米の町内調達を行っていることが明らかとなりました。また、町内で生産されている農産物や価格情報が共有されれば、さらに町内調達を増やすことができるとの調査結果が得られています。農業事業者についても、農業生産高の向上や地産地消、環境にやさしい農業の実践に積極的であることが明らかとなっています。また、福祉事業者やホテル等で提供される給食・食事の残渣を効率的に回収することによって、町内にある堆肥工場での再利用が可能であるため、循環型経済の構築に向けた高いポテンシャルを有している地域であることが明らかとなりました。

今後、農福連携を実践するため、さらに詳しい調査を進める必要があるとともに、福祉事業者と農家・農業事業者を結び付け、農産物や価格などの情報共有を行う枠組みづくりが課題であることも明らかとなりました。

この調査での成果は、2025年3月15日の京都府主催の報告会にて発表されています。



学生と役場職員との打ち合わせ、学生によるヒアリングの様子

- 学科名
経済学科
- 実施地域・場所
滋賀県草津市
(水生植物公園みずの森)
- 実施時期
2024年8月24日(土)
- 指導教員名
前田 一馬
- 参加学生数
8名

草津ブランドの認知度UP作戦！ ～アオバナシナジー～

「草津らしさを取り入れた〈地域ブランド〉の考案」の社会実装

夜間開館イベントの企画・実践へ

2024年度前期に「クロスオーバー型課題解決プロジェクト」の1クラスとして、草津市役所商工観光労政課との連携が実現し、受講生は「草津らしさを取り入れた〈地域ブランド〉の考案」に取り組みました。

授業の学びと最終提案をふまえて、草津市立水生植物公園みずの森において実施している夏季夜間開館でイベントを企画してみないかという提案を草津市役所からいただき、受講生5名に3名の学生をくわえてこの企画にチャレンジすることになりました。本プロジェクトは、夏季休暇中に授業をこえて実施したイベントの実践であるとともに、「社会実装」への挑戦です。

「あおばな」にフォーカスしたイベントの開催 —試行錯誤のなかに学びがある—

たんに企画の提案だけで終わらず、授業の枠をこえて、考えたことを形にする挑戦の場を得たことは、学生の思考力・企画力・行動力の強化につながりました。まず、みずの森の特色や来館者の傾向をふまえ、イベントの企画を行い、中心となる学生が最終提案した草津ブランド「あおばな」の認知度向上案とみずの森名物のハスソフトを組み合わせ、[草津ブルー®ソーダ]を考案し販売しました。この商品はあおばなの「青」をイメージしたソーダフロートで、ソフトクリーム・ソーダ・氷の分量や「映える」ことを意識したデザインの調整は試行錯誤の連続でした。

授業の最終提案を組み合わせ、あおばなの花が浮かびあがる「版画型スタンプラリー」も考案しました。夜間開館では家族連れの来訪が見込まれたことから、誰でもうまく作れるようにと直前まで試行錯誤を重ねました。さらに、スタンプラリー達成者はくじ引きに挑戦できるという仕組みを考え、景品に「草津ブランド」商品(日本酒、ストラップなど)を連携先とともに選定しました。

イベントは8月24日(土)18～21時の実施で、スタンプラリー参加者59名、フロート販売数は30杯でした。学生はローテーションを組み、スタンプラリーの補助、フロートの準備・販売にあたりました。来場者からも好評を得ることができ、さらに直接感想を伺うことができたことも学生の自信となりました。

授業終了後の7月末より、企画会議→草津市役所・みずの森担当者との打ち合わせ→現地の下見→イベント準備(物品購入・試作・スタンプラリー準備)→本番というイベントの企画・立案・実践を学生が主体的に経験し、計画・スケジュール管理・コミュニケーションの重要性、意思決定の楽しさと難しさなどを学ぶことができる取り組みとなりました。



フロートの広告



フロートの提供



消しゴム版画の装置



版画型スタンプラリーのチェックポイント



くじ引きと景品交換所

- 学科名
経済学科・経営学科・
情報工学科・
建築デザイン学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2024年9月～2025年1月
- 参加学生数
765名

3学部4学科合同PBLで 山科の魅力発信を提案

異なる専門分野を持ち寄りまちづくりの課題解決を考える

3学部4学科合同でのPBL(課題解決型学習)

経済学部経済学科・経営学部経営学科・工学部情報工学科/建築デザイン学科では、1回生後期の必修科目「プロジェクトマネジメントⅠ」の一環で、身近な社会課題の解決に取り組むPBL(Project Based Learning・課題解決型学習)を実施しています。山科区役所からまちづくりに関するテーマを提示していただき、学生チームが解決策を提案するという取り組みで、2024年度で4回目の実施となります。3学部4学科の混成チームで異なる専門分野を持ち寄り、多様な価値観やアイデアを一つの施策としてまとめるため、リーダーシップやコミュニケーション力、マネジメント力等が鍛えられます。



■ テーマ(山科区役所地域力推進室より)

1	「山科まちづくりチャレンジ応援事業」に申請すると仮定して、チャレンジしたい内容の提案
2	山科に長く住み続けられる魅力的な住まいを提供するため、空き家・一軒家・マンション・公営の団地など、既に山科にある住宅の活用策の提案
3	山科の観光地としての魅力を全国的に発信するために、個人として発信するブログ記事の提案

1月20日(月) 山科区長・山科区役所の皆さまへプレゼンテーションを実施

2024年度は約 150 チームからアイデアが出され、うち、選考を経た6チームがプレゼンテーションを実施しました。「山科の魅力にズームイン！健康促進×歴史博士」では、2つのモデルコースを設定し、健康維持と病気予防、山科の観光地巡りを行いながら山科区の地域活性化を目指しました。「山科子連れ応援プロジェクト施策」では、子育て世代でも入りやすい店の基準を設定し、店舗にステッカーを貼ることで、山科の子育て環境の良さをPRすることを提案しました。

プレゼン後は山科区役所の皆さまから、ターゲットの設定や広報展開、資金調達の方法、先行事例の紹介等専門的かつ実践的なフィードバックをいただきました。最後に山科区長・山口様より、学生の視点を実践に向けて生かしていきたいことや「meetus山科ー醍醐」の推進に向けた連携についてお話いただきました。本取り組みを通して、学生が山科に愛着をもつとともに、地域の皆さまにも魅力の再発見につながるよう、活気あるまちづくりに参加していきたいと考えています。

■ 選考で選ばれた6チームの提案内容

1	障害者の方の居場所	4	空き家活用の提案
2	山科子連れ応援プロジェクト	5	山科の魅力にズームイン！健康促進×歴史博士
3	セーフティ山科プロジェクト	6	「学生×地域」皆街&リノベーションプロジェクト



プレゼンテーションの様子



山科区長・山口様からの講評



山科区役所の皆様と参加学生の記念撮影

移動販売で地域を支える

データ活用による持続可能なサービスの実現

移動販売サービスの課題と可能性

京都市山科区は坂が多く、高齢者が買い物に困難を感じる地域でもあります。この課題を解決するため、(株)ダイエーが展開する移動販売サービスが注目されました。移動販売は高齢者の生活支援や栄養バランスの取れた食生活の促進、地域コミュニティの維持に寄与しています。しかし、人件費やガソリン代、車両の減価償却費などの運営コストが課題となっています。この背景を受け、京都橘大学経営学部桑ゼミでは、移動販売拠点の選定をデータ活用で支援し、サービスの持続可能性を高めることを目標にプロジェクトを進めました。

実地調査とデータ活用の取り組み

学生たちは(株)ダイエーの協力を得て実地調査を行い、移動販売が高齢者の生活に欠かせない存在である現実を目の当たりにしました。従業員にとって商品の積み下ろし作業や炎天下での対応は負担となる一方、顧客の「待っていましたよ」という声に応え、丁寧に対応する姿勢から、移動販売の社会的意義を強く感じました。

また、学生たちは企業提供の売上データに加え、jSTAT MAPや地理院地図などのオープンデータを活用しました。最寄り小売店との距離、坂の有無、周辺の高齢者人口を考慮し、重回帰分析を用いた売上予測モデルを構築しました。さらに、ChatGPTを活用して新規拠点の売上予測を行い、具体的な提案を可能にしました。

成果と今後の展望

オープンデータやChatGPTの活用は、多くの学生にとって初めての経験でした。試行錯誤を重ねながら新しいツールを習得し、データ収集から分析までを通じて、地域課題の解決にデータが果たす重要な役割を学びました。こうした成果は、本学経営学部が主催する2024年の第2回ビジネス&パブリックピッチで優秀賞を受賞するという形で評価され、学生たちにとって大きな喜びと成長の機会となりました。

本プロジェクトで得られた知見は、地域密着型サービスの効率化に活用できるものであり、今後も地域のニーズを的確に把握し、データ活用による持続可能な提案を通じて、地域社会への貢献を続けていきたいと考えています。



当日の移動販売



中間報告



ビジネス&パブリックピッチ



優秀賞を受賞

ney-ney project cafeの実施

SDGsカフェプロジェクト

共同研究プロジェクトの概要

京都橘大学経営学部経営学科の木下達文ゼミでは、現代ビジネス学部の時代より卒業研究とは別に共同研究プロジェクトを実施しており、座学と実践学とをバランス良く学習しています。今回のテーマは、いくつかの事業企画の中から「環境」と「カフェ」というテーマが選定され、とくに身近にある「もったいない」や「ロス」がクローズアップされました。したがって、まずは環境学習を行うとともに在学生の環境に対する意識調査などを調査した上で、環境問題を少しでも意識できるようなオリジナルなカフェの研究開発を行い、大学近くのレンタルキッチンを利用し、2日間実験的なカフェ経営を行いました。



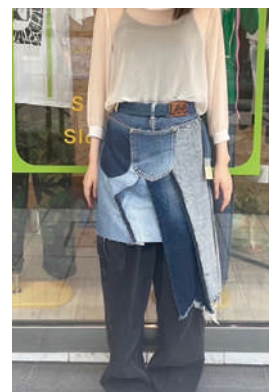
会場となった梶辻のレンタルキッチン

取り組みの経緯や狙い

本共同研究プロジェクトの狙いは、企画から制作までの研究実践活動を通じて、とくに学生に足りない社会人基礎力を向上させるとともに、実社会で役立つ基本的なビジネスの知識やノウハウを体験的に学ばせることです。学生が自らテーマを決め実施する方法をとっており、ゼロベースから企画・研究・制作を行うことから「クリエイティブ・ラーニング」と称しています。また、最終的な成果は、一般でも通用するレベルのクオリティを目指しており、社会的な評価を得られることも目標としています。

具体的な成果と実績

木下ゼミでは、所属する4回生の学生17名が、「ney-ney project café」を立ち上げ、2022年9月から活動をしてきました。このプロジェクトの集大成として、2024年10月13日(日)と10月14日(月・祝)に、大学近くのレンタルキッチンにおいて実施しました。具体的には、身近にある「食品ロス」、「フラワーロス」、「衣料ロス」の問題解決に向けて、3チームで取り組み、メニュー開発や店内装飾、関連商品のプロデュースを行いました。「食品ロス」に取り組んだチームは、山科区の「渡邊農園」と連携し、地産地消をめざしてサンドイッチに使う水菜としろ菜を種まきから栽培に関わりました。サンドイッチに向かない根元の部分などは野菜スープに使用しロスが出ないよう工夫しました。また、店内装飾は山科区にあるフラワーショップ「ちきりやガーデン」と提携し「フラワーロス」となった花を利用して、装飾やアレンジメントを行いました。「衣料ロス」については、奈良市にある「縫製基地」の指導のもと、捨てる予定だったデニムを学生がリメイク。カフェスタッフが使用するエプロンとコースターに生まれ変わらせました。カフェには2日間で合計85人が来店し、盛況のうちに無事終了することができました。



捨てるデニムで製作した
カフェエプロン

「ney-ney project café(ネイネイ プロジェクト カフェ)」の「ネイネイ」の由来は、「もったいない」の「無」を「値(ね)」に置き換えると「もったいない値」となり、その「値」を繰り返すと「値い値い(ネイネイ)」となります。捨てられてしまうようなものに新たな価値をつけるプロジェクトのコンセプトを表現。また、「ネイネイ」の響きが「いいね!」に似ており、多くの人にプロジェクトを「いいね!」と思ってもらいたいという意味も込められています。



自分たちで栽培した野菜を使った
サンドイッチ



オリジナル開発した
抹茶レモンサワー



ロスフラワーを用いた
アレンジメント

企業と学生による アロマオイル製品協同開発

京都橘大学の香りをつくる

サステナビリティで企業と学生の学び・活動をつなぐ

この活動は、(一社)京都知恵産業創造の森の仲介にて、京都市中京区のパーフェクトポーションジャパン(株)(以下PP社)と、本学経営学科「プロジェクト演習」クラス・松石ゼミの間で実施されました。PP社は、オーストラリア本社の日本法人で、オーガニックアロマとナチュラルコスメの正規輸入・卸・販売を事業としており、天然原料やサステナビリティを重視する同社と、企業のCSRやSDGs戦略を学ぶ松石ゼミの学生で、協同して社会課題を解決する製品アイデア等を考える目的で、このプロジェクトが始まりました。

京都橘大学らしさを表現する「橘 Aura」

取り組みは2つのフェーズで進行了しました。1段階目は社会課題に対応したアロマ原料を考え提案することで、ここではまずオーストラリア本社社長の公開講演会を開催、また以降のゼミでは精油のブレンド体験、精油原料の種類の学習などでアロマについての理解を深めました。それらを前提に2023年末、社会課題と組み合わせた精油原料や製品、それらの利用法について提案しました。

第2段階として、社長のご協力で上記提案の一つにあった「京都橘大学の香りのアロマ」の製品化を2024年に進めることとなりました。まず、単純に校名の「橘」の植物イメージにとらわれず、本学や本学学生のイメージの再定義を目指しました。学内・学外からのアンケート等によってイメージを具体化・言語化し、他方で多様な精油原料の持つ効能を文献からデータベース化、それらを照合することで大学や学生のイメージを表現できる精油原料を選定しました。これらから京都橘大学の香りのストーリーを組み立てPP社にプレゼン、アロマスプレー「橘 Aura」の製品化が実現しました。また製品の価格設定、パッケージデザイン、ターゲットや販路決定、広告などを実際に学生たちが行いました。



学生よし・企業よし・大学よし

1段階目における学生の提案群には、社長にこのプロジェクト後も前向きに実現を考えたいという評価をいただいたものが複数あり、一方学生も一連の活動で社会課題の深掘りや資料の収集・整理、製品実現化過程の実際的な作業など貴重な体験を積むことができました。産学協同本来の相互作用を実現できたといえるでしょう。また、総務課、学術振興課や学部事務課、大学の父母の会や同窓会にご協力いただき、まさに大学全体を巻き込んだ製品の実現となりました。



- 学科名
看護学科
- 実施地域・場所
京都市伏見区(醍醐中山団地)
- 実施時期
2024年6月22日(土)
- 指導教員名
松本 賢哉
- 参加学生数
103名

「看護お助け隊 in 醍醐中山団地」の活動

醍醐中山団地の住民を対象に

地域の住民も喜び学生の学びも得られる看護学実習の在り方

看護の対象となる人々の生活に視点をおくことは、看護を行う上で、非常に重要です。しかし、世代間交流が少ない近年の学生は、高齢者の生活をイメージすることが難しく、入院患者への援助を考える時の障害となっています。そこで、醍醐中山団地の住民の協力を得ながら、高齢者の生活を知る実習を計画しました。

住民の方にとっては、日々の生活上の困り事が解決し、普段接する機会の少ない若い世代との交流を通じて生活のハリを得ることができます。また、学生にとっては、実際にお宅を訪れることで、医療・介護・行政・ご近所付き合いなど、色々な形で存在している社会の仕組みから漏れてしまうちょっとした困りごとを具体的に知ることができるため、在宅医療が進むなか、退院支援をするための知識としてとても学びの多い実習となり、双方にとってメリットがあります。

活動の成果

活動については、6月22日(土)に3回生(103名) 配当の「生涯健やか看護学演習」にて実施しました。事前に棟長の方々により実習協力者と作業内容を募り、その作業内容に合わせ学生配置と事前学習を実施しました。協力者は17世帯となり、1世帯に学生を2～5名配置し作業を行いながら普段の買い物や食事など生活の様々な話をすることができました。学生が学びになったのはもちろんのこと、住民の方は「普段若い人と話をする機会がなかったので楽しい時間が過ごせた」と喜んでいました。住民の方も喜び学生の学びも得られる持続性のある看護学実習の方向性が導き出せたと考えられます。



たちばな健康相談

地域住民の方々の健康の保持・増進を目指して

地域住民の方々の健康の保持・増進を目指して

看護学部看護学科では社会貢献事業の一つとして、『地域住民のニーズにもとづいた健康相談や生涯学習などの活動を通じて、その方々の健康を支援する』という目標のもと、健康支援事業を行っています。

たちばな健康相談

たちばな健康相談は、看護学部の教員と学生が協力しながら実施しています。2024年度は、大学祭と京都市山科区主催の区民祭り「やましな健康フェスタ」にて実施しました。大学祭では、身体計測、血圧測定、骨密度測定、血管年齢測定、脳年齢測定、健康相談などを行い約230名の方に参加いただきました。やましな健康フェスタでは山科中央公園内で、山科区内の地域包括支援センター、地域介護予防推進センターと合同で体力測定ブースを出し、本学は主に骨密度測定を行いました。当日の参加者は約270名となりました。

健康相談に参加された方からは、生活を改める良い機会になった、測定の手際も良く素晴らしかった、家族で参加できて楽しかったなど、参加への満足や今後の健康への抱負といった嬉しい声をいただくことができました。さらに、今回参加していない家族にも知らせたいとの声上がるなど、参加者を通して家族や周辺の人々への健康意識の向上、健康増進への拡がりの可能性を感じさせる結果となりました。

地域住民の健康意識向上と住民との関わりからの学生の学び

やましな健康フェスタ、大学祭とも、測定に参加した学生をはじめ、多くの地域の方々にとって健康を振り返る機会となったことをうれしく思います。今後、継続して開催し、健康チェックの機会として親しまれる活動になるよう、尽力していきたいと思います。また、この相談会をきっかけに健康的な地域づくりにかかわることができればと願っています。

この健康相談は多くの看護学生が参加し、学生同士が学年を超えて学び合える機会となっています。また、学生だけでなく地域に住む多様な背景をもつ様々な年代の方々を対象とする活動であることから、普段の講義や演習・実習での学びを実践的に応用し、人々の健康増進につながるかわりする方法を学び工夫する場になっています。さらに、保健師国家試験を受験する4回生にとっては、健康相談全体の運営、実施、評価といった展開を学ぶ貴重な場となっています。今後も健康支援を通じた地域の活性化と、学生の学びにつながる事業を目指していきたいと思います。



やましな健康フェスタでの様子



大学祭での様子



- 学科名
理学療法学科
- 実施地域・場所
京都市山科区(大宅児童館)
- 実施時期
2024年8月7日・8日
- 指導教員名
安彦 鉄平
- 参加学生数
25名

小学生の健康調査

子どもの健康問題を考える

体力測定会を通じて知る、子どもが抱える健康問題

健康科学部理学療法学科では、子どもたちの健全な発達を支援するため、山科区の大宅児童館と協力して体力測定会を実施しました。本活動は、運動機能検査や質問調査を通じて子どもたちの健康状態や運動習慣を把握することを目的としており、本年は25名の学生および7名の教員で実施、75名の小学生が参加しました。

この取り組みの背景には、「子どもロコモティブシンドローム(子どもロコモ)」の問題があります。子どもロコモは、食べ過ぎによる肥満や生活習慣の乱れ、運動不足が原因で運動器の機能が低下する状態を指し、将来の健康リスクを高めるとされています。今回の調査では、11名が子どもロコモに該当する結果となりました。また、運動に対する肯定的な感情や生活習慣に関するアンケート調査を通じて、運動に対する自信が子どもロコモに関連していることも判明しました。

学生たちはこの取り組みを通じて、子どもたちが抱える健康上の課題を具体的に理解することができました。例えば、高学年になるほど運動に対する自信や楽しさが減少する傾向が見られ、これが運動習慣の低下や健康リスクの増加につながる可能性があることを学び、また、運動不足が筋力やバランス能力の低下を招き、子どもロコモを引き起こしていることもデータを通じて実感しました。これにより、学生たちは子どもの健康における身体的側面と心理的側面の相互作用を理解し、運動機会の創出や支援の必要性を深く考えるきっかけを得ることができました。

また、本活動では、学生たちが子どもたちに楽しく測定に取り組んでもらうため、簡潔で分かりやすい説明を行い、笑顔で心掛けたコミュニケーションを徹底しました。このような経験は、地域の子どもの健康促進だけでなく、将来、子どもの患者さんを担当する際にも大いに役立つと考えられます。

今後もこの活動を継続し、得られた知見を地域や教育現場に還元することで、子どもの健康改善に寄与するとともに、学生教育のさらなる発展を目指したいと思います。



京都市在住高齢者を対象とした 運動器検診

医師・理学療法士・研究者・理学療法士を志す学生の連携

- 学科名
理学療法学科
- 実施地域・場所
京都市右京区(京都先端科学大学)
- 実施時期
2024年6月22日(土)・23日(日)
- 指導教員名
甲斐 義浩、安彦 鉄平、
重藤 隼人
- 参加学生数
のべ22名(うち大学院生4名)

他機関と連携して実施

健康科学部理学療法学科は、2017年より京都市在住の高齢者を対象に、運動器疾患(骨、筋腱、および関節などの疾患)の予防や早期発見を目的とした運動器検診を実施しています。本取り組みは、京都先端科学大学アクティブヘルス支援機構が主催する地域高齢者向け体力測定会と共同で開催しており、日常的に運動器疾患の診療に携わる整形外科医師や理学療法士、健康科学を専門とする研究者、理学療法学科の教員と学生・大学院生などが連携して、運動器の痛みや身体・運動機能に関する様々な検査を行っています。

運動器疾患の早期発見や予防の重要性を確認

今年度は、464名の地域在住高齢者が体力測定会に参加し、そのうち295名の高齢者が運動器検診に参加されました。検査内容は、自覚症状(関節の痛み、部位、程度など)や他覚症状(ストレステスト)、疼痛感作関連評価、健康関連QOL、筋力測定、関節可動性や柔軟性、姿勢・アライメント評価、医師による超音波検査などを実施しました。

参加者の年齢は、平均75歳(60～90歳)で、うち75%を女性が占めていました。関節の痛みを自覚している高齢者は全体の20～30%で、関節の痛みを訴える高齢者ほど健康関連QOLが低いことがわかりました。また、関節の痛み(自覚症状)はないにも関わらず、超音波検査で腱板損傷が見つかるケースもあり、高齢者の健康関連QOLを維持していくうえで、運動器疾患の早期発見や予防が重要であることが確認されました。



学生の果たした役割と成果

本取り組みには、理学療法学科の3年生6名、4年生3名、大学院生2名(理学療法士・本学卒業生)が参加しました。学生は、主に自覚症状(痛みの聴取)や質問紙(健康関連QOLや疼痛感作評価)、筋力測定、柔軟性や可動域の測定を担当しました。事前に十分な準備や練習を行いました。高齢者とマンツーマンで実施するため、調査開始時には緊張や不慣れな対応も見受けられました。しかし、検査を繰り返して行うことで、次第に緊張もほぐれ、スムーズな検査測定を実施できるようになりました。次々に来られる参加者に対して、コミュニケーションを上手に取りながら、与えられた時間の中で正確な検査を実施するのみならず、周囲にも気を配りながら、全体運営に対しても大きな役割を果たすことができました。



一軒家を活用した 多世代交流の場を体験

共生社会構築のための取り組み

- 学科名
作業療法学科
- 実施地域・場所
京都市左京区 (NPO 法人地域
共生開発機構ともつく)
- 実施時期
2024年 (通年・不定期)
- 指導教員名
小川 敬之、川崎 一平
- 参加学生数
のべ30名 (およそ)

NPO 法人ともつくは、健康な方、障害を持たれている方、高齢者、子どもなど全ての人達が地域社会で力を発揮し、役割を担いながら、生涯現役でいきいきと共生してゆくことを支援する法人です。社会保障等の範囲で支援が十分に行き届かない人達や子どもたちなど様々な世代の方達に、ボランティア (有償ボランティア) 活動などを通じて、社会参加支援、自立支援、介護予防支援を行うとともに、当事者の家族や地域住民、医療福祉従事者に対しても Well-being の理解を促進する啓発事業を行っています。



NPO 法人ともつくでのボランティア活動

NPO 法人ともつく (以下、ともつく) で定期的に行われるカフェでの交流、ワークショップの手伝い、ともつくが企業連携で請け負っているマグカップ作成や手芸キットの袋詰めなどの作業、高齢者のみなさんとともに食事を作ったり一緒に食べたりの交流など、学生たちは多様なボランティア活動を行っています。そのほか、子どもたちが持ってきた壊れたおもちゃを高齢者のみなさんが修理する「おもちゃ病院」の取り組みに参加するボランティアも行っています。こうした活動により、参加学生は、病院で経験するものとは異なる、地域での作業療法の実践を肌で感じることができています。このともつくでのボランティア活動には、作業療法学科の小川ゼミの学生のほか、なかには 1 回生の時点から活動に参加している学生もいます。



マグカップ作りの様子

座学では学ぶことができない高齢者との関わり

こうした活動により、高齢者のみなさんは学生たちとのふれあいを通して、より一層いきいきと楽しく活動に取り組むことができるとともに、一方の学生たちも、大学の座学では決して学ぶことができない高齢者とのコミュニケーションを体験し、作業療法を学ぶ上での貴重な機会としています。

また、ゼミ活動においても、このボランティア活動で得たヒントからコロナ後の他者とのふれあいや外での活動を卒論のテーマにしたり、なかには情報収集のため話を伺ってテキストマイニングをしたり、活動量の計測にご協力をいただいたりなど、学生の学びにもつながられています。また、ともつくにはさまざまな団体や研究者が訪れることも多くあるため、そうした機会を活用して他大学学生との交流も行っています。



- 学科名
作業療法学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内、奈良県山添村、
オンライン(高齢者自宅)
- 実施時期
2024年(通年・月1回)
- 指導教員名
佐川 佳南枝
- 参加学生数
4～10名(各回)

ものづくり教室を通じた学生と 高齢者の交流

学生との協同が高齢者の創造性を刺激する

オンラインと対面、ハイブリッドでのものづくり教室

作業療法学科では学科の特性を生かし、高齢者を対象として作業(ものづくり)を通じて仲間づくりや活力づくりに貢献するヘルスプロモーション・プログラムを2018年度より実施してきました。2021年1月よりzoomを使っのオンラインものづくり教室を開始し、2023年4月からは、大学で行いたい対面組と自宅から参加するオンライン組のハイブリッド型で開催しています。2022年秋からは奈良県山添村でも高齢者対象のものづくり教室を行い、村内の公民館数か所と京都の高齢者宅をつなぐ形で開催しています。zoomを学びたいという方へはものづくり教室の後にzoom教室も開催していたり、スマホで作品を素敵に撮るコツを学生がお伝えしたりもしています。

「楽しい」「うれしい」で健康に

ものづくり教室は、学生と高齢者の協同をもう一つの目的としています。会場では、学生の一人が作業の講師役となり、WEBカメラを通して京都の高齢者たちに作業の手順を教えます。他の学生たちは、テーブルごとに高齢者の作業のお手伝いをします。学生たちは、そのなかで高齢者とのコミュニケーションを学びます。学生の一人は「ご自身で作られたペンダントなどを高齢者の方で嬉しそうに見せ合い、楽しそうにしてくださっている姿を見て、自分がサポートしながら作ったことにすごくやりがいを感じ嬉しく思いました」と語っています。作る楽しさ、いいものができたという達成感、自分が関わったことで喜んでもらえた喜び。ものづくり教室はそうした感情の共同体から成っています。ものづくりを通し、高齢者も若者も一体となって体感する「楽しい」「うれしい」といういきいきした感情が健康づくりに確かにつながっていきます。

学生との協同が高齢者のクリエイティビティを刺激

京都でのものづくり教室で最近取り入れているのが、自由度の高いアートな種目です。最初はそうした抽象的なアートになじめない高齢者もいたのですが、学生が自由にのびのびと行っているのに触発されて挑戦し始めました。いつも手が震えて細かい作業は難しい方も「手が震えていてもこんな作品ができました」と少し興奮した様子でオンラインの画面越しに作品を紹介してくれました。学生と高齢者が協同してひとつの作品を完成させることもあります。高齢者も学生も、作品を笑顔で披露しあい、「すごいなぁ」「感性が素敵」などとコメントしあいます。作品を仕上げた安堵感とともに喜びや驚き、ユーモアが共鳴する感情の共同体が形成されていきます。



学生と高齢者のアートの協同



学生とアートを楽しむ高齢者

- 学科名
救急救命学科
- 実施地域・場所
本学キャンパス内
- 実施時期
2024年10月30日(水)
- 指導教員名
守田 央、井上 陽一
- 参加学生数
10名(1回生)

PUSH 講習及び救急蘇生法の普及活動

救急救命学科学生から大宅中学校 3 年生へ

PUSH 講習の重要性と普及活動

心臓が原因で突然心停止となる人は、1年間で約9.1万人にのぼります¹⁾。

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator: 以下 AED) による電気ショックがカギを握っています。そして、これらの処置が1分遅れるごとに救命率は約10%ずつ低下します。現在、119番通報をしてから救急車が到着するまでの平均時間は10.3分です²⁾。その場に居合わせた一般市民の方々 (Bystander) が、迅速に心肺蘇生やAEDによる電気ショックなどの一次救命処置 (Basic Life Support: 以下BLS) を実施することで、命を救える可能性が非常に高くなります。

そこで健康科学部救急救命学科では、教員と学生が協力をして、大宅中学校 3 年生86名に対しPUSH講習 (胸骨圧迫とAEDの正しい使用方法を学ぶ) とファーストエイド (市民が行う救急蘇生法のうちBLS以外の行動) の普及活動を行いました。

1) 公益財団法人日本AED財団: 心臓突然死の現状 (最終アクセス: 2024.12.20)

2) 総務省消防庁 令和5年版救急・救助の現況 (最終アクセス2024.12.20)

Bystander の育成と学生の能力向上を狙って

本活動の狙いは、大きく分けて2つあります。

1つ目は、早い時期から命の尊さについて学び、命を救う手段を知ることです。前述のとおり、突然の心停止から命を救うためには、Bystanderの協力が必要不可欠です。学校教育時期からBLSについて触れ、その後も定期的な学びを繰り返すことで救命技術が定着していくような取り組みとなることを期待しています。そして、早期から命について真剣に考えることで、将来のBystanderを育成することができます。

2つ目は、当学科学生の知識の定着とコミュニケーション能力の向上です。救急蘇生法を教えている学生は、日々救急救命士になるための勉強に励んでいます。授業や実習でインプットしたことを、活動を通してアウトプットすることで、知識を深めることができ、より確実な知識の定着に繋げることができます。また、インストラクションを行うことで医療従事者として必要なコミュニケーション能力の向上を図ることができます。

今後もこのような活動を継続していくことで、一人でも多くの尊い命が救われることを期待します。



PUSH講習会



応急処置講習会



第2回

山科ふれあいあおぞら駅伝救護

駅伝を通じてふれあいの場を —救急救命研究部TURF—

- 学科名
救急救命学科、看護学科
- 実施地域・場所
京都市山科区(山科疎水公園)
- 実施時期
2024年11月2日(土)
- 指導教員名
関根 和弘、益満 茜、
齋藤 汐海
- 参加学生数
30名(およそ)

地域活性化を目指して

昨年から開催されている山科ふれあいあおぞら駅伝は、約400名のランナーと、運営スタッフ約50名が参加する活気あふれる大会です。この大会は、老若男女を問わず、走る楽しさを知ってもらうことを目的としており、地元の方々からランナーへのうどんや飲み物の提供を通して地域のつながりが広がっていく点も大きな魅力です。救急救命学科や看護学科の学生が所属する救急救命研究部TURF(約40名)は、救護担当として参加させていただきました。当日はあいにくの雨に見舞われ、開催が危ぶまれましたが、地域の方々のご協力のおかげで重症な救急事案もなく、無事に大会を終えることができました。

医療者を目指す学生として

救急救命研究部TURFは、救急救命士や看護師を目指す学生で構成されています。駅伝の救護活動は、将来医療従事者として働く学生にとって、大変貴重な経験となりました。

様々なケースを想定して救護活動の導線や無線連絡の方法を確認する事前準備の過程では、臨床現場で直面する、どんな環境下でも最善を尽くすといった重要なスキルを身につけることができました。当日は雨の影響もあり、転倒による傷病者が複数発生しましたが、情報共有を密に行い、限られた資器材を活用して対応することができました。来年もこの大会が無事に開催されることを願い、各々のスキルを高めて準備していきたいと思います。



環境と健康を守る： 地域に根ざした感染症対策の最前線

京都の河川から見える薬剤耐性菌の実態と地域社会への影響

取り組みの概要

現在、細菌における薬剤耐性 (AMR) は国際的な課題となっています。この背景には、不必要な抗生物質 (抗菌薬) の使用や抗菌薬の不適切な服用などが挙げられます。WHO (世界保健機関) によると、AMR対策を講じない場合、2050年にはAMRを原因とする死者数が増え、世界で年間1000万人に達すると予測されています。本研究は、人間・動物・環境の健康を一つの健康と捉え、全体を守っていくという「One Health」の理念に基づき、河川環境におけるAMRの動向を調査することを目的として、2021年に開始しました。主な研究対象は、医療現場において病院内感染リスクが高く注目されている基質拡張型β-ラクタマーゼ (ESBL) を産生する大腸菌です。大腸菌はほぼ全てのヒトの腸内に存在します。その大腸菌に抗菌薬が効かなくなると多くの病気を持つヒトが不利益を被ることになります。また、ESBL産生大腸菌は病院内のみならず、河川や土壌・家畜といった環境中への拡散が問題視されており、モニタリングすることが重要であるとされています。そこで、中村ゼミでは学生が京都府内の河川に出向き、河川水を採取しそこから大腸菌の分析を試み、どのように拡散しているのか原因を探るべく研究を実施しています。

河川環境中の薬剤耐性菌の調査内容と4年間の成果

2021～2024年4月に京都府内の河川より採水を行い、検出されたESBL産生大腸菌について解析を行ってきました。京都府内の河川において、継続的に薬剤耐性を獲得した大腸菌が存在していることが明らかとなりました。また、河川の下流域において多様な型のESBL産生大腸菌が検出されたことから、大病院や人口密集地が影響していると懸念されます。2022年までは、河川から検出されたESBL産生大腸菌のうち、日本のヒトから分離される型が大部分を占め、動物や海外で検出される型の割合は10%以下でした。しかし、2022年10月に外国人の入国制限が緩和されて以降、動物や海外で検出される型が占める割合が、2023年で30%、2024年で50%となり、年々増加傾向にあります。さらに、2023年には、現時点で南米のみで報告されているESBL産生大腸菌が京都府内の河川から分離され、国内初検出となりました。今後、ESBL産生大腸菌の環境への影響や海外由来型の定着の有無を調査していくことが必要だと考えられます。更に、地域と連携し病院内で検出される大腸菌と河川から分離される菌について、分子生物学的解析を用いて関連性を見出していきたいと考えています。



河川から分離された細菌の研究風景



フィールド調査でサンプルを採取



河川水から細菌を分離する装置

その他の地域連携活動一覧（教育）（研究）（社会貢献）

1 地域を対象とした教育活動						
学 部	学 科	科目名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	京都産業文化論Ⅰ	山内由賀	京都市	97名	京都市で発展してきた伝統産業について学び、地域の歴史と産業への理解を深め、関心を高めた。
文学部	歴史学科	京都産業文化論Ⅱ	野田泰三	京都市	31名	京都府・京都市に拠点を置き国内外に展開している企業から招請した講師の講演を聴き、各企業や業界の動向、働くこと・社会に出ることの意義について理解を深めた。
文学部	歴史学科	京都の歴史と文化遺産	増渕徹	京都市	58名	京都市域に残る多様な歴史遺産について、講義・見学を通して理解を深め、それらを保存・活用・継承していくための問題意識を深めた。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅰ・Ⅱ	有坂道子	京都市	2回生	江戸時代京都の商家近江屋の古文書解読調査を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ・Ⅳ	有坂道子	京都市	3回生	伏見区内海家の古文書解読調査、江戸時代京都の商家麴屋の古文書解読調査を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学演習Ⅱ・実習Ⅳ	村上裕道	滋賀県草津市	3回生	滋賀県文化財保護協会・草津市文化財担当職員他による歴史遺産を生かしたまちづくりの計画に関する実践検討会に参加を行った。
文学部	歴史遺産学科	京都総合演習	村上裕道	京都市中京区	3回生	元離宮二条城の見学者の動態調査（エスノグラフィ調査・トラッキング調査）を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学基礎ゼミⅠ<*a>	村上裕道	京都市東山区	2回生	選定保存技術保存団体「檜皮こけら葺」について、同団体の会長へのインタビュー及び檜皮葺の実演を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅳ	小林裕子	兵庫県姫路市	2～3回生 (10名)・ 院生(2名)	書写山円教寺での仏像調査を行った。
文学部	歴史遺産学科	遺産情報演習Ⅰ	村上裕道 中久保辰夫 小林裕子	京都市伏見区	2～4回生 (26名)	醍醐寺での世界遺産PBLを行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産調査実習	中久保辰夫	滋賀県高島市	教員・受講生 (18名)、 学生有志 (8名)	高島市教育委員会協力のもと、北牧野古墳群の踏査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅱ	中久保辰夫	兵庫県三木市	2回生	三木市史編さん事業に関わる窟屋扇ノ坂古墳出土須恵器の実測を行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ	中久保辰夫	兵庫県三木市	3回生	三木市史編さん事業に関わる窟屋扇ノ坂古墳出土須恵器の実測、トレースを行った。
文学部	歴史遺産学科	歴史遺産学実習Ⅲ	中久保辰夫	京都市山科区	3回生	山科「ふるさとのかい」と連携した山科区戦没者墓の三次元計測を行った。
発達教育学部	児童教育学科	教育演習Ⅰ	佐野仁美	京都市山科区	14名	音楽に関心を持つ学生が集まる佐野ゼミの活動の一環として、7月1日に山科区のももの木子ども園でアウトリーチ活動を行った。学生自身で選曲し、全体の構想を考えて「セタコンサート」を企画した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅱ・Ⅲ	阪本崇	京都府警	20名	京都府警が主催するポリス&カレッジ in Kyoto 2024において、モビリティ・シェアリングにおける安全の向上についての提案を行った。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ	阪本崇	京都市	15名	文化市民局くらし安全推進部くらし安全推進課からの依頼を受け、客引き禁止条例の啓発(客引きについていけない、客引きアルバイトをしない)を行うための動画作成を行った。
経済学部	経済学科	アカデミックスキル	竹内直人	福井県敦賀市	27名	新幹線が延伸した敦賀市のまちづくりについて、敦賀市長に対して5つの学生グループが具体的な振興策を提言した。
経済学部	経済学科	地方行財政論	竹内直人	京都府宇治市、 坂井市、おおい町	80名	各市町の首長がそれぞれの自治体の政策課題を講演し、学生はそれを踏まえたレポートを作成し、自治体に提出した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ・Ⅲ	竹内直人	福井県越前市	36名	自治体はどのように地域課題を解決するかについて市長の講義を聞き、現地をみてレポートを書いた。

学 部	学 科	科目名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅲ	前田一馬	京都市山科区	20名	「たちばな大学から500m プロジェクト」と題して、大学周辺の地域の特徴を調査した。4つのグループに分かれて、笠原寺、岩屋神社、岩屋こども園アカンパニー、近隣住民等に聞き取り調査を実施し、知見を共有した。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ	小山大介	京都府 与謝野町	15名	与謝野町および京都府北部ジョブパーク共催のインターンシップイベントに学生とともに参加し、地域の有力企業の情報収集とマッチングを行った。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ・Ⅲ	平賀緑	京都市伏見区	33名	1926年創業で近郊農業を続けている中嶋農園を訪問し、継続するための会社経営の工夫や資源循環の取り組みの話を伺い、タマネギ苗移植の農業体験を行った。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ、 非営利経済論、食料経済論からの希望学生	平賀緑	京都市	18名	認定NPO法人セカンドハーベスト京都が夏休み/冬休み前に実施している「こども支援プロジェクト」に希望学生を連れてボランティア参加、それぞれ1000家庭へ送付する食料の箱詰め作業を行った。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅱ・Ⅲ	岡田知弘	京都市、 滋賀県大津市、 草津市	19名	4つのチームに分かれ、京都市錦市場、水族館、大津市の石山寺、草津市の琵琶湖博物館、草津市街地における観光客の増加が地域に与える影響について調査を実施し、報告書にとりまとめた。
経済学部	経済学科	プロジェクト演習Ⅰ	岡田知弘	京都市	16名	京都の観光に関する調査を始めるための基礎的情報を得るために東山区役所でヒアリングのあと現地調査を行った。
経済学部	経済学科	クロスオーバー型 課題解決プロジェクト	岡田知弘	東山区役所	20名	京都市内の有限会社・遠山と連携して、京都の学生マンションへの入居促進のための提案を行った。
経営学部	経営学科	公共マーケティング/ 文化資源デザイン論	木下達文	滋賀県 近江八幡市	186名	地域課題を地域文化資源の再評価の側面から考える授業であり、2020年度から教員が連携している近江八幡市を対象としている。新カリキュラムとなり受講生が大人数となったため今年度も1日のみのフィールドワークとなったが、ここ数年で地域課題と提案の集積ができています。
経営学部	経営学科	ロジスティクス論	桑海侠	大阪市	桑ゼミ (17名)	学部3年生向けのロジスティクス論の授業では、データサイエンスの観点からサプライチェーンで発生する情報を効率的に運用する方法に焦点を当てて講義している。株式会社センコーの企業見学を行い、学生たちが実際の物流センターの運営を直に体験し、理論と実践を結びつける貴重な機会となった。
工学部	情報工学科	クロスオーバー型 課題解決プロジェクト	工藤寛樹	滋賀県長浜市	4名	滋賀県長浜市への訪問者を誘致するための施策を、学生らに対するアンケートや地域のオープンデータの分析に基づき、市役所職員の方へのイベント提案を行った。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅴ	鈴木克彦	兵庫県洲本市	17名	「第21回城下町洲本レトロなまち歩き」のイベントの一環として、元タケダ玩具店にて、竹を使った巨大迷路、めんこや万華鏡づくりといったイベントを企画し、地元住民との交流を行った。同様のイベントを七夕祭りにて実施した。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅳ	鈴木克彦	兵庫県洲本市	10名	洲本市との域学連携事業として、洲本市本町商店街の一角にある元タケダ玩具店の空き家活用について改修案を検討し、その成果を地元住民を交えたワークショップにて発表した。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅲ	鈴木あるの	滋賀県日野町	7名	滋賀県日野町（一社）近江日野商人島崎の家の保存活用プランを、日野まちまみ保全会役員の3名にご来学いただき講評と意見交換をしていただいた。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅲ、Ⅴ合同	鈴木あるの	滋賀県日野町	20名	滋賀県日野町にて、現地の古民家を活用した旅館・レストラン・カフェを見学し、また今後の活用が望まれる物件を見学し、経営者や管理者の説明を聞いた。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの	京都市	21名	醍醐寺三寶院にて、京都に戦国時代から残る古寺の建築と庭園の見方について学んだ。
工学部	建築デザイン学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの 鈴木克彦	大阪市	42名	竹中工務店大阪本社技術部の方に、大阪万博などのプロジェクトの現場と進め方についてのお話を聞いた。

学 部	学 科	科目名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
工学部	建築デザイン 学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの 鈴木克彦	大阪市	42名	株式会社キャリアナビゲーションより、全国と海外で開催しインターンシップとして学生も参加できる建築施工プロジェクトについてのお話を聞いた。
工学部	建築デザイン 学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの 鈴木克彦	大阪市	42名	株式会社浅沼組、須賀工業株式会社様より、関西一円での建築実務や建築施工の現場についてのお話を聞いた。
工学部	建築デザイン 学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの 鈴木克彦	京都市	42名	株式会社八清創業会長西村様から、京町家を再生するとりくみについてお話を聞いた。
工学部	建築デザイン 学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの 鈴木克彦	大阪市	42名	株式会社レガサルト所員より、アトリ工建築事務所による地域再生の取り組みについてお話を聞いた。
工学部	建築デザイン 学科	建築プロジェクト演習Ⅱ	鈴木あるの 鈴木克彦	大阪市、他	42名	株式会社神吉不動産代表取締役神吉優美氏より、大阪・兵庫一帯360戸の古い賃貸アパートの再生と経営、そして空室を活用した地域コミュニティづくり(塾つき子ども食堂など)の取り組みについて話を聞いた。
工学部	建築デザイン 学科	建築プロジェクト演習Ⅱ、Ⅳ合同	鈴木あるの	奈良市	28名	重要文化財藤岡家住宅(非公開)にて、江戸期から続く大和商家の建築および経営の歴史や作法について当主夫妻からの講演をいただき、店構えの複雑な構造の開閉や竈門の炊き方の体験を行う。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	征矢野あや子 深山つかさ 十倉絵美 座光寺佑樹 堀友紀子 福元志保美	京都橘大学	1回生103名 4回生8名	生涯健やか看護学実習Ⅰとして、山科区老人クラブ連合会との共催で「体力測定会」を2回に分けて本学で行った。1回生は体力測定の準備を行った後、参加者とペアになり、体力測定を行った。4回生はTAとして下回生の指導助言を行った。なお、学まちチャレンジ！プロジェクトと協働し、健康教育を実施した。参加者は合計約120名であった。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	深山つかさ 堀友紀子 福元志保美	京都市山科区	1回生24名	山科区老人クラブ連合会が実施する美化ウォーキングに参加した。3つのコースに分かれ、ゴミを拾いながら高齢者と交流を深めた。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	座光寺佑樹 堀友紀子	滋賀県大津市	1回生19名	志賀ブロック老人クラブ連絡協議会主催ニュースポーツ交流会に参加、活動をサポートした。
看護学部	看護学科	生涯健やか看護学実習Ⅰ	征矢野あや子 深山つかさ 十倉絵美 座光寺佑樹 堀友紀子 福元志保美	大津市大津市	1回生101名	大津市老人クラブ連合会との共催で「新体力測定」を、3回に分けて行なった。1回生は参加者とペアになり、血圧測定など高齢者の健康状態などについて評価した後、体力測定を行った。参加者は約100名であった。
健康科学部	作業療法学科	ヘルスプロモーション作業療法学	原田瞬	京都市山科区	36名	山科団地集会所にて、健康をテーマにした創作活動や体操を通して学生と住民が交流した。少子高齢化が進む地域課題について理解を深めた。
健康科学部	作業療法学科	地域包括ケアシステム演習	菅沼一平 原田瞬	京都市山科区、 伏見区、 大阪府堺市	36名	山科団地集会所を活用し、地域住民のつながりを作ることを意図した活動を学生が企画し、実践した。地域課題の発見と解決手段、コミュニケーションについて実践を通して学習した。また、醍醐中央図書館、堺市立東図書館にて地域図書館との連携で図書のPOP展示を行い、認知症啓発と地域資源について理解を深めた。
健康科学部	作業療法学科	作業療法研究法演習Ⅱ	菅沼一平	大阪府吹田市	5名	健都ライブラリー、山手地区公民館にて介護予防事業として大学生と地域高齢者が一緒に作業活動を行った。教育的な成果としては学生のコミュニケーション力が向上した。
健康科学部	救急救命学科	JESA(全国救急救命教育施設協議会)総会	救急救命学科	愛知県名古屋市	350名 (現地+ オンライン)	救急救命士教育施設協議会の総会を実施した。教員研修会、教育講演などの講演を聴講した。
健康科学部	救急救命学科	橘中・高ドリームスクール	齋藤汐海 井上陽一	京都橘中学高校	5名	京都橘中高にて、小学生を対象にBLS講習を行った(対象50人)。
健康科学部	救急救命学科	緊急援助隊近畿ブロック訓練(福知山)	関根和弘 益満茜 澤田仁 黒崎久訓	京都府福知山市	150名	緊急援助隊近畿ブロック訓練の傷病者役として学生が参加した。
健康科学部	救急救命学科	机上図上訓練エマルゴ	救急救命学科	京都市、他	3回生50名 +卒業生	災害机上図上訓練であるエマルゴを実施した。

2 地域を対象とした研究活動

学 部	学 科	活動名	担 当	対象地域または実施場所	活動の内容や成果
文学部	歴史学科	神社所蔵文書・社家文書の一体把握による中近世賀茂別雷神社の総合的研究	野田泰三	賀茂別雷神社(上賀茂神社)ならびに京都周辺地域	研究分担者として神社所蔵文書・社家文書の一体把握による中近世賀茂別雷神社の総合的研究を行う。
文学部	歴史学科	特定共同研究「賀茂別雷神社文書の調査・研究」	野田泰三	賀茂別雷神社(上賀茂神社)ならびに京都周辺地域	東京大学史料編纂所の特定共同研究(代表:金子拓)。2023年度から継続。賀茂別雷神社文書の研究・分析を通し、同社の神事・祭祀、賀茂六郷の支配構造、京都周辺地域の社会・政治構造を解明することを目的とする。
文学部	歴史遺産学科	彦根藩史料調査研究	有坂道子	滋賀県彦根市	彦根城博物館による館蔵史料の共同研究。
文学部	歴史遺産学科	神河町史編纂	村上裕道	兵庫県神河町	神河町史執筆のため、町内ダム調査などを実施した。
文学部	歴史遺産学科	奄美大島、徳之島の水中考古文化遺産調査	南健太郎	鹿児島県奄美市、伊仙町、徳之島町	船舶の停船でし行する錨についての水中考古学的調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	日本海における近世以前の港の水中考古学的調査	南健太郎	京都府京丹後市	日本海沿岸において港関連遺構の水中考古学的調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	宇佐山城跡の測量調査	南健太郎	滋賀県大津市	宇佐山城跡を踏査し、測量調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	中国出土銅鏡の調査	南健太郎	中国山東省	山東省各機関所蔵銅鏡の悉皆調査を実施した。
文学部	歴史遺産学科	唐招提寺金堂での調査	小林裕子	奈良県奈良市	スライダーを用いた金堂撮影を実施した。
発達教育学部	児童教育学科	京都市における小規模保育の現状と課題ー〈小さな保育環境〉から見えてくる乳児保育の課題ー	青木美智子 長橋聡	京都市内	京都市内124園の小規模保育事業所に調査用紙を発送し、小さな保育環境における乳児期の異年齢保育の実態を調査している。
経済学部	経済学科	与謝野町における共生型農業の実現に向けた基礎調査	小山大介 前田一馬	京都府与謝野町	与謝野町からの受託研究として、町内における共生型農業の実現に向けた基礎調査を実施した。
工学部	建築デザイン学科	高経年分譲マンションの管理適正化と流通促進に資するシステム構築	鈴木克彦	京都市	国土交通省「住宅ストック維持・向上促進事業(地域特性を踏まえた住まいづくりのための住宅金融モデル事業)」として、京都市と連携して高経年の分譲マンションの管理適正化と流通促進に向けた調査・研究を行った。
健康科学部	作業療法学科	地域活性化を目的とした世代間交流のあり方とその効果に関する研究	原田瞬 小川敬之 菅沼一平 川崎一平	京都市山科区	山科団地エリアの住民を対象に、世代間交流が地域活性化に及ぼす影響を調査している。
健康科学部	作業療法学科	認知症の人を介護する家族(主たる介護者)の介護力評価尺度の開発	菅沼一平	家族の会各都道府県支部	在宅で認知症の人を介護する家族主介護者の心理面と生活状況を包括的に評価する「介護力評価尺度」を開発する。
健康科学部	作業療法学科	地域高齢者の作業機能障害に影響する要因に関する研究	菅沼一平	大阪府吹田市	在宅在住の健常高齢者を対象に、作業機能障害(作業不公正)に関連する要因を調査する。
健康科学部	作業療法学科	一次予防における主体価値を軸とした持続可能な介護予防プログラムの開発	菅沼一平	大阪府吹田市	地域高齢者を対象に作業に焦点を当てた介護予防を行い成果を見る。
健康科学部	救急救命学科	病院外心停止(OHCA)に対する、バイスタンダーによる早期除細動実現に関する研究(情報工学科との合同研究ユニット)	関根和弘 澤田仁 齋藤汐海	京都市山科区	現在、設置されているAED実機とAEDマップの相違についての検討を行い、問題点の抽出と改善案を算出し、早期発見と早期除細動の実現を達成目標とし検討をする。
健康科学部	救急救命学科	へき地離島における救急医療システムの方策	関根和弘	徳島県、宮崎県、沖縄県	へき地離島における救急医療(役場救急)の現状と課題を検討した。
健康科学部	救急救命学科	ERチーム医療の新しい担い手:病院救急救命士制度の概要とその展望	久保山一敏	日本医療マネジメントケア学会大阪支部	救急救命士法改正によって2021年に公式に可能となった病院内での救急救命士の救護活動において、制度の概要や運用の注意点について第16回日本医療マネジメントケア学会大阪支部学術集会において講演を行った。
健康科学部	救急救命学科	日本における災害犠牲者家族のメンタルケア:日本DMORTのユニークなアプローチ	久保山一敏	全国	災害犠牲者家族のメンタルケアの重要性を指摘し、かつ活動要員の養成を行ってきた日本DMORTの沿革と活動を、第15回アジア太平洋災害医学会(韓国・ソウル)において発表した。
健康科学部	救急救命学科	救急隊員の感染防止対策における消防機関特有の課題	澤田仁	全国	医療関連感染情報の季刊誌CARLISLE2024Vol.27(吉田製薬株式会社発行)からの依頼を受け、救急隊員の感染防止対策の現状と課題について執筆した。
健康科学部	救急救命学科	WHO手指衛生手順6ステップ+1ステップを加えた手指衛生教育用動画を活用した取り組み	澤田仁 他	全国	INFECTION CONTROL第34巻1号(株式会社メディカ出版発行)からの依頼を受け、手指衛生教育用動画を活用した7ステップの手指衛生手順の普及啓発の取り組みについて執筆した。
健康科学部	救急救命学科	N95マスク装着時の主観的評価と客観的評価との整合に関する検討	澤田仁 関根和弘 平出敦 他	京都橘大学、岐阜県、他	N95マスク装着時のユーザーシールチェックによる主観的評価と、定量的フィットテストによる客観的評価との関連を明らかにする。

3 地域を対象とした社会貢献活動

学 部	学 科	活動名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	日本語日本文学科	万城目学氏学術講演会「創作あれこれ講座」	野村幸一郎 千々岩宏晃	京都橘大学	250名	学科・学会共同開催事業として直木賞受賞作家の万城目学氏をお招きし学術講演を開催、学外者100名を招待した。
文学部	日本語日本文学科	大東市日本語ボランティアパステルでの研修	千々岩宏晃	大阪府大東市	なし	大東市の日本語ボランティア「パステル」において、日本語の仕組みや外国人とのやり取りにかかわる月1回の研修・夏期講習を行った。
文学部	歴史学科	講演会「公家の戦国時代」	尾下成敏	京都市	なし	京都アスニーにて、戦国織豊期の公家社会に関する講演を行った。
文学部	歴史学科	自治体史の編纂	野田泰三	京都府京田辺市、 奈良県五條市	なし	各市史の編纂委員、編纂専門員として市史刊行事業に協力した。
文学部	歴史学科	講演会「京都の文献考証学とヤマト国のなぞー「倭面土国」と「倭国」」	岩井茂樹	京都市	なし	歴史文化ゼミナール2024京都・人とモノの再発見の一環として講演を行った。
文学部	歴史学科	自治体史の編纂	飯塚一幸	大阪府摂津市、 枚方市、 京都府舞鶴市	なし	各市史の編纂委員、編集委員として市史刊行事業に協力した。
文学部	歴史遺産学科	ヘリテージマネージャー養成・スキルアップ講習会の講師	村上裕道	福島県郡山市、 兵庫県神戸市	なし	文化庁が各都道府県に補助等支援するヘリテージマネージャーの育成講習会において講師を務めた。
文学部	歴史遺産学科	文化財保存活用地域計画学習会の開催	村上裕道 中久保辰夫 南健太郎	滋賀県守山市、 草津市	6名	本学と連携協定を結んでいる公益財団法人滋賀県文化財保護協会と共同で、守山市・草津市を事例に、滋賀県内における市町文化財担当職員に向けて「文化財保存活用地域計画の推進」方策について学習会を開催した。
文学部	歴史遺産学科	文化遺産の防災に関する有識者会議	村上裕道	国立奈良文化財研究所	なし	国立文化財機構文化財防災センターが主催する、文化財防災センターの事業実施計画について検討した。
文学部	歴史遺産学科	兵庫県都市公園のあり方検討会(明石公園)に関する協議	村上裕道	兵庫県公園協会	なし	兵庫県が管理する明石公園の保存・活用に関する運営について、市長・市民団体代表者・行政(県・市)・専門家による協議を行った。
文学部	歴史遺産学科	文化財保存活用地域計画・文化財保存活用計画の策定	村上裕道	兵庫県姫路市、 淡路市、明石市、 福崎町、高砂市、 群馬県嬬恋村、 埼玉県北本市	なし	文化庁が推進する文化財保存活用地域計画及び文化財保存活用計画の策定に向けて指導・助言を行った。
文学部	歴史遺産学科	阪神・淡路大震災30年伝承事業	村上裕道	兵庫県 教育委員会	なし	兵庫県内文化財担当職員他によるシンポジウムにて、基調講演及びコーディネーターを担った。
文学部	歴史遺産学科	トルコとの文化遺産防災に関する人材養成事業	村上裕道	奈良国立文化財研究所	なし	奈良国立文化財研究所が招聘したトルコ文化観光省 博物館・文化遺産関係専門家への日本における地震被害に関する復興報告を行った。
文学部	歴史遺産学科	第6回 近畿まちづくりセミナー 兵庫会議	村上裕道	大阪府他近畿府 県建築士会	なし	近畿建築士会協議会、まちづくり部会の年次研修会にて基調講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	滋賀県文化財保護協会文化財連続講座2024	南健太郎	滋賀県大津市	なし	2024年9月28日に滋賀県埋蔵文化財センターにて「青銅器から弥生時代を覗く 青銅器を求めた弥生人たち」と題する講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	令和6年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座	南健太郎	福岡県福岡市	なし	2024年12月7日に福岡市博物館にて「北部九州の銅鏡と弥生社会」と題する講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業	中久保辰夫	京都府長岡京市	なし	京都府教育委員会が実施する京都府下の小中高校生対象の出前授業。10月9日に長岡京市立神足小学校6年生2クラスを対象に行った。
文学部	歴史遺産学科	子どもの知的好奇心をくすぐる体験事業	中久保辰夫	京都府舞鶴市	なし	京都府教育委員会が実施する京都府下の小中高校生対象の出前授業。10月14日に舞鶴市立由良川小学校6年生1クラスを対象に行った。
文学部	歴史遺産学科	大阪府立狭山池博物館 令和6年度特別展「交差する技術」 歴史セミナー講師	中久保辰夫	大阪府狭山市	なし	2024年9月21日に大阪府立狭山池博物館歴史セミナーにおいて、「古墳時代日韓交流と越境する陶工たち」と題する講演を行った。
文学部	歴史遺産学科	上郡町教育委員会令和6年度トライやる・ウィーク講師	中久保辰夫	兵庫県上郡町	なし	2024年11月13日に上郡町教育委員会が受け入れている令和6年度トライやる・ウィークに講師として、中学生に遺跡調査の方法を教えた。
文学部	歴史遺産学科	島根県立八雲立つ風土記の丘令和6年度 第5回ガイド養成講座講師	中久保辰夫	島根県松江市	なし	2024年11月9日に島根県立八雲立つ風土記の丘令和6年度 第5回ガイド養成講座において、「古代出雲の渡来人と「倭の五王の時代」-韓半島系土器を中心に-」と題する発表を行った。

学 部	学 科	活動名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
文学部	歴史遺産学科	交野市 令和6年度特別展「交野の重点遺跡 森遺跡を探る」市民文化財講座 講師	中久保辰夫	大阪府交野市	なし	2024年12月1日に令和6年度特別展「交野の重点遺跡 森遺跡を探る」市民文化財講座において、「5・6世紀の東アジア情勢と交野の古墳時代-渡来人の土器を中心に-」と題する発表を行った。
文学部	歴史遺産学科	アートロードなぎつじ	中久保辰夫	京都市山科区	なし	2024年9月にアートロードなぎつじに山科区出土古代土器の展示を行った。
発達教育学部	児童教育学科	山科ひまわりプロジェクト	青木美智子	京都市山科区	なし	大学至近に一反の畑を借り、季節の草花を植え、地域住民と交流するプロジェクトに、特別養護老人ホームの入居者やスタッフ、学生、教職員らが参加している。
発達教育学部	児童教育学科	大津の保育を充実する会	青木美智子	滋賀県大津市	なし	大津市の待機児童184名の解消のため、大津市内の保育の充実、公立園の拡充、保育士の待遇改善を求める会の代表を務めた。
総合心理学部	総合心理学科	保育コンサルテーション	宮井研治 濱田智崇	京都市山科区、 滋賀県草津市	なし	草津市立こども園4か園、山科区内こども園1園にて、統合保育に関するコンサルテーションを実施した。
総合心理学部	総合心理学科	父親の子育て支援事業 「パパと一緒にふれあい農園で秋に触れよう」	濱田智崇	京都市山科区	2名	乳幼児を育てている父親同士の交流を図り、心理臨床的観点からの子育て支援を目指す取り組みとして10月5日におおやけこども園にて開催し、学生は乳幼児とかかわるボランティアとして参加した。
経済学部	経済学科	山科区スマートフォンアプリ運営協議会	阪本崇	京都市山科区	なし	副会長を務め、今後のスマートフォンアプリの在り方についての議論に参加した。
経済学部	経済学科	大阪労働大学講座	石水喜夫	大阪府	なし	大阪府、大阪労働協会などが運営する講座で講師を務めた。
経済学部	経済学科	丸亀市産業振興推進会議 委員(会長)	小山大介	香川県丸亀市	なし	丸亀市産業振興推進会議の会長として会議の取りまとめを行っている。
経済学部	経済学科	丸亀市ブランド認定部会 部会長	小山大介	香川県丸亀市	なし	丸亀市地域ブランド「丸亀セレクト」選定部会の部会長として、申請のあった市内産品の認定評価を行った。
経済学部	経済学科	NPO法人 使い捨て時代を考える会	平賀緑	京都市	なし	アーカイブ事業において、50年史編集を手がけた。
経済学部	経済学科	総務省自治大学校講師	岡田知弘	全国の都道府県、 市町村	なし	総務省の自治大学校において、「地域産業政策」をテーマにした研修講師を行った。
経済学部	経済学科	砺波散村地域研究所運営協議員	岡田知弘	富山県砺波市	なし	砺波市市立散村地域研究所の運営活動に従事した。
経済学部	経済学科	京都市「東山の未来」区民会議	岡田知弘	京都市東山区	なし	東山区の基本計画を見直す区民会議の議長を務めた。
経済学部	経済学科	長岡京市中小企業振興推進会議委員	岡田知弘	京都府長岡京市	なし	長岡京市の中小企業振興推進会議会長を務めた。
経営学部	経営学科	「ルシオール・フェスティバル」の運営	木下達文	滋賀県守山市	3名	守山市実施の音楽によるまちづくり支援において、立命館守山会場を中心に協力を行い、学生も事前研修および本番でのイベントマネジメントを体験的に学ぶ機会となった。事業のマンネリ化に対する見直し提案も行った。
経営学部	経営学科	「やましな山科駅前陶灯路」の休止からのネットワーク改善「シン橋セッション」の開始	木下達文 大田雅之	京都市山科区	10名	新型コロナの流行以降の「やましな山科駅前陶灯路」休止が今後も続く見通しであることを受け、大学が核となるネットワーク作りの一環として、本年度より「シン橋セッション」の企画を行い、関係団体との関係強化に向けた取り組みを開始した。
経営学部	経営学科	山科検定の運営協力・講演会	木下達文	京都市山科区	なし	山科区が実施するご当地検定の開催方法等についてのアドバイスをを行っている。本エントは主催の山科経済同友会の記念事業として講演会を大々的に実施した。
経営学部	経営学科	安土城再建プロジェクト協力	木下達文	滋賀県 近江八幡市	なし	近江八幡市安土町において取り組まれている安土城再建プロジェクトを実施する「安土城再建を夢見る会」の運営サポートを中心に顧問として参加した。滋賀県立安土城考古博物館運営懇談会委員。2026年度が築城450年を迎えるため、その準備を行っている。

学 部	学 科	活動名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
経営学部	経営学科	安土城考古博物館展示リニューアル事業協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県立安土城考古博物館の老朽化にともない、展示の全面リニューアル事業の協力を行う。過去に博物館展示論で学生による事業評価協力を行うなどしており、その反映をしている。今年度は第1展示室を改修し、コンテンツの制作と工事にはいつている。
経営学部	経営学科	特別史跡安土城跡整備基本計画策定協力	木下達文	滋賀県	なし	滋賀県が昨年度より取り組んでいる特別史跡安土城跡整備基本計画策定検討会議に委員として参加した。敷地所有者との連携がうまく進んだことにより、未発掘の地域が多く残る安土山の今後の発掘の方向性を検討した。昨年度で整備が開始され、本年度は第2期の発掘調査が実施され、金箔瓦などが発見された。
経営学部	経営学科	デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画協力	木下達文	滋賀県 近江八幡市	10名	滋賀県が本年度より取り組んでいるデジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画検討懇話会に委員として参加した。資料不足など多くの問題で再建が難しい安土城を、デジタルで復元していくという事業への協力。本年度はコンテンツを制作する会社と学内の有志学生がモニターとなって、内容を制作している。
経営学部	経営学科	滋賀県内における博学連携事業への協力	木下達文	滋賀県	3名	滋賀県の文化政策(主に博学連携事業)を担う中間支援組織「滋賀次世代文化芸術センター」の事業協力を行う。主に文化施設と学校をつなぐ「連携授業」の在り方について様々な言及や広報事業の協力を行う。理事として参加。事業が20年を超えてきたため、本年度には事業を集約した本の発行を目指している。
経営学部	経営学科	客引き行為等対策審議会への協力	木下達文	京都市	200名	京都市の繁華街における客引き行為を禁止する条例があるが、いまだに客引きが絶えない現状を検討する審議会の委員として参加した。現状分析並びに今後の対策について検討を行った。本年度は大学に広報する政策を展開する一環として、木下が担当する公共マーケティング授業において実験的にレクチャープランの企画と実施を行った。
工学部	情報工学科	京都府立南陽高等学校	吉田俊介	京都府木津川市	なし	「バーチャルリアリティ概論」と題し、「バーチャル」の意味するものの本質と、「仮想」ではなく「現実」を作るためのメディア情報処理の諸技術を扱った模擬授業を、高校2年生14名に向けて行った。
工学部	情報工学科	第2回 Digital 縁日	吉田俊介 杉浦昌 工藤寛樹	京都市南区	13名	日本新薬と第一工業製薬が共同で開催(リコージャパン協力)する企業間の交流会において、情報工学を題材とした大学での取り組みを出展した。学生らが主導して展示準備を進めた。
工学部	情報工学科	京都学びフェスタ2024展示	杉浦昌	京都市上京区京都産業会館ホール	2名	8月25日に、京都府主催の京都学びフェスタ2024のデジタル体験コーナーにハンドベル自動演奏システムを展示した。
工学部	情報工学科	メイカーフェア	杉浦昌	京都府、東京都	3名	4月27-28日に京都府、9月21-22日に東京都にて開催の米国発祥 Maker Faire にハンドベル自動演奏システムを出展した。
工学部	情報工学科	京都橘中高橋祭	杉浦昌	京都市伏見区	2名	9月6-7日に京都橘中高のロボットプログラミングクラブとの連携でハンドベル自動演奏システムを展示した。
工学部	情報工学科	京都府立菟道高校での授業	杉浦昌	京都府宇治市	なし	菟道高校にて10月24日に2年生21名に対し、情報が社会をどのように支えているかの授業を行った。
工学部	情報工学科	京都府私立中学高等学校情報科研究会	杉浦昌 福田陽介	京都府	なし	7月9日に京都府私立中学高等学校情報科研究会の夏期研究会を本学で実施し、技術アドバイザーとして参加。
工学部	情報工学科	日本原子力研究開発機構 福島研究開発・評価委員会	伊藤京子	福島県	なし	福島県の復興に向けた研究開発の評価に関して、委員として参加し、研究開発の方向性に対して評価した。
工学部	建築デザイン学科	京都府建築工事紛争審査会委員	鈴木克彦	京都府	なし	建築工事に関する当事者間の紛争を解決させるための調停審議を行った。
工学部	建築デザイン学科	京都府建築審査会委員	鈴木克彦	京都府	なし	副会長として、建築基準法に基づき建築許可が必要な建築物に対する可否や同意、不服申し立てなどの審査請求に対する議決等を行った。

学 部	学 科	活動名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
工学部	建築デザイン 学科	大阪府建築協定地区連絡協議会 特別顧問	鈴木克彦	大阪府	なし	大阪府下340地区の建築協定地区で構成される 連絡協議会の特別顧問として建築協定の運営指 導を行った。また、令和6年度総会において基調 講演を行った。
工学部	建築デザイン 学科	城陽市東部丘陵地整備委員会委員	鈴木克彦	城陽市	なし	新名神高速道路のスマートICの開通に伴って開 発が進む城陽市東部丘陵地の開発方針について 審議を行った。
工学部	建築デザイン 学科	京都100年マンション支援会議	鈴木克彦	京都市	なし	高齢年マンションの長寿命化に資する流通シス テムの構築を目標として、京都市、地元金融機関、 不動産業者等の連携による検討会を立ち上げ、座 長を務めた。
工学部	建築デザイン 学科	冊子「高齢年マンションの長寿命 化に向けた様々な工夫～100年マ ンションを目指して～」の刊行	鈴木克彦	京都市	なし	高齢年マンションの長寿命化に向けた様々な管 理上の方策についてとりまとめ、マンション管理 に有益に活用される資料として刊行、市民に配布 した。
工学部	建築デザイン 学科	名古屋市長寿協定連絡協議会	鈴木克彦	名古屋市	なし	成熟社会における建築協定の運営のあり方につ いて、市民を対象に記念講演を行った。
工学部	建築デザイン 学科	福岡市長寿協定地区連絡協議会	鈴木克彦	福岡市	なし	成熟社会における建築協定の運営のあり方につ いて、市民を対象に記念講演を行った。
看護学部	看護学科	山科区役所保健福祉センター 保健師等業務研修会	下田優子	京都市山科区	なし	山科区より依頼を受けて、区役所保健福祉セン ターの保健師、ケースワーカー等を対象に、要点 を押さえたわかりやすい記録の書き方について、 講義と演習を実施する
看護学部	看護学科	東山区役所保健福祉センター 保健師等業務研修会	下田優子	京都市東山区	なし	東山区より依頼を受けて、区役所保健福祉セン ターの保健師、ケースワーカー等を対象に要点を 押さえたわかりやすい記録の書き方について、講 義と演習を実施する
看護学部	看護学科	伏見区本所地域包括支援センター 保健師等専門職部会 地域診断勉強会	黒瀧安紀子 下田優子	京都市伏見区	なし	伏見区の地域包括支援センター職員を対象に、地 域診断の作成に関する講義と演習を行う
看護学部	看護学科	第20期小児在宅ケアコーディネー ター研修会	堀妙子 伊藤弘子 藤谷菜々美	全国	6名	小児の在宅ケアに関わる看護職14名を対象とし、 5月18-19日、8月31日、12月21日の全3回の研 修会を京都橘大学にて実施した。
看護学部	看護学科	安朱学区福祉イベント 「こころもからだも健康で 来て 観て 笑顔で」	松本賢哉 征矢野あや子 川村晃右 十倉絵美	山科区	18名	安朱学区が行う福祉イベントに参加した。骨密度 や脳年齢、握力、身長体重等の測定を学生ととも に行った。
健康科学部	理学療法学科	伏見区の高齢者を対象とした たちばな健康体操の講演	安彦鉄平	伏見区	なし	10月3日に高齢者約60名を対象に、伏見区本所 包括支援センター主催のはつたつ体操講義として、 「たちばなタオル体操」の紹介および介護予防に 関する講演を行った。健康寿命の延伸、運動の重 要性などを中心に講演を行い、その後、たちばな タオル体操を行った。
健康科学部	理学療法学科	伏見区の高齢者の健康に向けた「 たちばなタオル健康体操」の講演	安彦鉄平	伏見区	なし	5月26日に伏見区において公園体操として利用 されているたちばな健康体操の第2段として、た ちばなタオル健康体操を作成した。そこで、公園 体操のボランティアリーダーを対象に、たちばな タオル健康体操の紹介および介護予防に関する 講演を行った。
健康科学部	理学療法学科	京都きっずを対象とした メディカルサポート	甲斐義浩 田中真紀	京都市中京区	11名	5月26日に、京の子ダイヤモンドプロジェクト(京 都きっず)に参加するジュニアアスリート約50名 を対象に、メディカルチェックを実施した。スポー ツ障害を専門とする整形外科医や理学療法士ら とともに、スポーツ障害のチェック、身体機能評 価や体力テストを実施した。
健康科学部	作業療法学科	京都市介護認定審査会	川崎一平	京都市	なし	京都市の附属機関として設置され、要介護者等の 保健、医療、福祉に関する学識経験者によって構 成される合議体(京都市介護認定審査会)の委員 として要介護度の審査・判定に従事した。
健康科学部	作業療法学科	一般社団法人日本認知症ケア学会、 機関認定委員会 委員	菅沼一平	日本認知症 ケア学会	なし	認知症ケアに特化した施設の認定委員として、助 言・意見を行った
健康科学部	作業療法学科	吹田市、認知症総合支援業務委託事 業者選定等委員会 委員長	菅沼一平	大阪府吹田市	なし	初期集中支援チーム、認知症地域支援コーディネ ーターの業務上の審査に際し、意見・助言を行った。

学 部	学 科	活動名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活動の内容や成果
健康科学部	作業療法学科	吹田市高齢者保健福祉計画・ 介護保険事業計画推進委員会 委員	菅沼一平	大阪府吹田市	なし	吹田市の福祉計画の審査委員として意見・助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	吹田市認知症カフェ交流会、世話人	菅沼一平	大阪府吹田市	なし	吹田市認知症カフェの連絡協議会の世話人として意見・助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	【AMED】長寿科学研究開発事業	小川敬之	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構	なし	厚生省、経産省などが主幹となり、国家レベルの研究事業の申請に対する検討を行う。この事業では、地域社会、共生社会の構築に関する研究事業を中心に審議する。
健康科学部	作業療法学科	京都府作業療法士会養成部部長	小川敬之	京都府 作業療法士会	なし	京都府作業療法士会に所属する養成校の教員を中心に、卒前、卒後教育のあり方などを検討し、研修会などを実施している。
健康科学部	作業療法学科	認知症のひとと家族の会調査研究員	小川敬之	認知症のひとと 家族の会	なし	老健事業の企画、調査、分析を行った。
健康科学部	作業療法学科	NPO法人地域支援センター つながり理事長	小川敬之	宮崎県門川町	なし	重層的支援体制構築事業（自治体委託事業）を行った。
健康科学部	作業療法学科	NPO法人地域共生開発機構 副理事長	小川敬之	京都市右京区	あり	嵯峨野にて就労的活動、多世代交流事業を行った。
健康科学部	作業療法学科	NPO法人むすび理事	小川敬之	宮崎県椎葉村	なし	就労的活動、多世代交流事業、地域づくり、就労的活動支援を行った。
健康科学部	作業療法学科	宮崎県諸塚村認知症初期集中支援 協議会委員	小川敬之	宮崎県諸塚村	なし	認知症初期集中支援会議、地域づくりを行った。
健康科学部	作業療法学科	日向市認知症地域支援体制推進会 議委員	小川敬之	宮崎県日向市	なし	地域における認知症施策の検討を行った。
健康科学部	作業療法学科	社会医療法人耕和会理事	小川敬之	宮崎市	なし	地域づくり、病院運営を行った。
健康科学部	作業療法学科	東京都健康長寿医療センター研究 所協力研究員	小川敬之	東京都	なし	老健事業、厚労科研等の協力、就労的活動への助言を行った。
健康科学部	作業療法学科	合同会社SA・Te黒潮	小川敬之	宮崎県門川町	なし	副社長として高齢者、障害者雇用の推進、社内で集いの場の構築を行った。
健康科学部	救急救命学科	小野勸修おやじの会合同イベント	関根和弘	京都市山科区	6名	山科区住民を対象にBLS講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	山科区区民祭り	澤田仁	京都市山科区	2名	助け合いのブースに参加した。
健康科学部	救急救命学科	朱一保育園BLS	齋藤汐海	京都市山科区	5名	BLS指導を行った。
健康科学部	救急救命学科	身近なものが防災グッズに早変わり	澤田仁	京都市山科区	10名	防災に関する展示、啓発活動を行った。
健康科学部	救急救命学科	第77回滋賀 JPTEC プロバイダー コース タスク	益満茜	滋賀県	10名	外傷講習会傷病者役を担当した。
健康科学部	救急救命学科	勸修学区自主防災会BLS講習	関根和弘	京都市山科区	7名	BLS指導を実施した。
健康科学部	救急救命学科	安朱小学校BLS	関根和弘	京都市山科区	4名	BLS指導を実施した。
健康科学部	救急救命学科	円町まぶね隣保園BLS	齋藤汐海	京都市	4名	BLS指導を実施した。
健康科学部	救急救命学科	京極小学校防災訓練	澤田仁	京都市	15名	防災啓発活動、防災訓練参加を行った。
健康科学部	救急救命学科	東野北部第2町内会BLS	関根和弘	京都市山科区	6名	BLS指導を実施した。
健康科学部	救急救命学科	山階南学区防災訓練	澤田仁	京都市山科区	15名	防災啓発活動をし、防災訓練に参加した。
健康科学部	救急救命学科	京都花火救護	救急救命学科	京都市	63名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	勸修おやじの会主催 キャンプ救護	関根和弘	京都市山科区	40名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	勸修おやじの会主催 キャンプ救護	関根和弘	京都市山科区	40名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	京都橘大学主催 サッカーイベント救護	関根和弘	京都市山科区	15名	救護活動を担当した。

学 部	学 科	活 動 名	担 当	対象地域または実施場所	学生参加の有無 その人数	活 動 の 内 容 や 成 果
健康科学部	救急救命学科	小野小学校水難講習	関根和弘	京都市山科区	15名	救護活動、水難講習を担当した。
健康科学部	救急救命学科	夏休み遊び広場	関根和弘	京都市山科区	3名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	勸修おやじの会主催 夏祭り救護	関根和弘	京都市山科区	67名	救護活動を担当した(対象者300名)。
健康科学部	救急救命学科	山科タンタンおもちゃライブラリー 夏キャンプ	関根和弘	京都市山科区	6名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	山科タンタンおもちゃライブラリー 夏キャンプ	関根和弘	京都市山科区	6名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	鴨川納涼祭	関根和弘 益満茜 澤田仁 黒崎久訓	京都市	10名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	第78回滋賀 JPTEC プロバイダー コース タスク	益満茜	滋賀県	5名	傷病者役を担当した。
健康科学部	救急救命学科	京都 JPTEC プロバイダーコース タスク	益満茜	京都府	5名	傷病者役を担当した。
健康科学部	救急救命学科	こより保育園久世BLS	齋藤汐海	京都市	5名	BLS指導を行った。
健康科学部	救急救命学科	勸修ふれあいの集&あそび広場	関根和弘	京都市山科区	7名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	第二回山科ふれあいあおぞら駅伝 救護	益満茜 齋藤汐海	京都市山科区	25名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	山科区民総合防災訓練	関根和弘	京都市山科区	6名	運営補助を担当した。
健康科学部	救急救命学科	鏡山ふれあい祭り	関根和弘	京都市	12名	救護活動、運営補助を担当した。
健康科学部	救急救命学科	第一回大谷選手のグローブで野球 してみた	関根和弘	京都市山科区	11名	救護活動を担当した。
健康科学部	救急救命学科	緊急消防援助隊近畿ブロック訓練	関根和弘 益満茜 黒崎久訓 澤田仁	京都府福知山市	79名	訓練想定における傷病者役77人および防災ブ ースタッフ2人を担当した。
健康科学部	救急救命学科	京都市防災訓練	関根和弘 澤田仁	京都市	あり	訓練想定における傷病者役を担当した。
健康科学部	救急救命学科	救急救命体験学習 (京都橘中学校3年生)	守田央 井上陽一 他	京都市山科区	12名	中学生に対する応急手当講習を行った。
健康科学部	救急救命学科	山科区大宅学区防災訓練	関根和弘	京都市山科区	4名	山科区大宅学区自治防災会に対するBLS指導を 行った。
健康科学部	救急救命学科	京都防衛・防災フェスタ	関根和弘	京都市山科区	6名	防衛防災フェスタで簡易レインコート作成指導 を行った(参加者200名)。
健康科学部	救急救命学科	下京区総合防災訓練	関根和弘	京都市	8名	防災訓練でBLS指導(受講者100名)、備蓄米の配 布活動を行った。
健康科学部	臨床検査学科	検査と健康展	藤原麻有	京都市	1名	京都イオンモール桂川にて臨床検査の体験、子宮 頸癌検査の広報活動を市民を対象に行った。
健康科学部	臨床検査学科	京都私立病院協会施設見学	所司睦文 藤原麻有	京都市山科区	なし	京都私立病院協会の代表者7名と事務局2名が参 加し施設見学を実施した。臨床検査学科の取り組 みについて説明した後、懇談会を行った。
健康科学部	臨床検査学科	タスク・シフト実技研修会の 実務委員	藤原麻有 所司睦文 中村竜也 岡田光貴 内堀恵美	京都保健衛生 専門学校	なし	京都府の医療施設に勤務する臨床検査技師を対 象に、新しく臨床検査技師が実施可能となった業 務の実技講習会に実務委員として参加した。なお、 5月19日開催タスク・シフト実技研修会のみ、本 学から所司睦文・中村竜也・岡田光貴・内堀恵美が 実務委員として参加した。



自治体・企業・大学等との連携協力に関する協定等

2012年度～2024年度

協定（連携）先	締結日	締結事項
学校法人 昭和大学	2012年 1月16日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 看護職および看護・医療のレベルアップへの取組、人事交流、看護に関する共同研究と地域連携などを推進。
日本赤十字社 京都第二赤十字病院	2013年 1月21日	教育研究協力に関する包括協定を締結。 ○本学看護学部的主要実習病院としての連携強化 ○「京都第二赤十字病院特別奨学金制度」の創設（1学生約360万円） ○奨学金制度の創設に伴う新規推薦入試制度の導入 ○看護に関する共同研究および地域連携の推進、教職員の交流
京都市山科区	2013年 9月24日	本学と山科区は、地域連携・協力に関する協定を締結。 ○まちづくりの推進 ○地域産業の振興 ○教育、文化、生涯学習、スポーツの振興 ○医療・健康・福祉の向上 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○防犯、防災、交通安全等の地域の安心・安全の推進
社会福祉法人 京都博愛会 (京都博愛会病院)	2014年 3月5日	理学療法士養成および理学療法・医療をめぐる教育研究に関する事業の発展を目指し包括協定を締結。 ○本学健康科学部理学療法学科における教育・研究に関する事項 ○京都博愛会病院理学療法士および理学療法・医療のレベルアップのための支援に関する事項 ○理学療法に関する共同研究および地域連携に関する事項 ○教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項
社会福祉法人 大宅福祉会 (おおやけこども園)	2014年 6月1日	対人援助に携わる専門職者の養成ならびに看護・医療、保育・教育、臨床心理・発達心理をめぐる教育研究の振興のため包括協定を締結。 ○本学人間発達学部児童教育学科における教育・研究に関する事項 ○本学看護学部看護学科における教育・研究に関する事項 ○本学健康科学部心理学科および心理臨床センターにおける教育・研究に関する事項 ○大宅保育園の保育職および保育のレベルアップのための支援に関する事項 ○地域の子育て支援に関する事項 ○教育と研究の発展のため、その他必要と認められる事項
滋賀県野洲市	2014年 6月17日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他両者が必要と認める事項
京都市 醍醐中山団地町内連合会	2014年 10月30日	京都市、醍醐中山団地町内連合会と地域活性化に寄与する取り組みを目的とした連携協定を締結。 ○地域連携センター分室の開設 ○留学生が暮らす国際シェアルームの運営 ○住民との交流による地域貢献活動 ○地域コミュニティの再生と活性化 ○健康および福祉活動

協定(連携)先	締結日	締結事項
滋賀県草津市	2014年 12月25日	本学と滋賀県草津市は、子育て支援の充実を軸とした包括協定を締結。 ○幼児教育・児童教育に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○地域の活性化に関する事業 ○人材育成に関する事業
大津市老人クラブ連合会	2015年 6月10日	地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業の実現および看護・医療をめぐる教育・研究の振興をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な看護職者育成に寄与することを目的として協力協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項(一次予防事業の実施など) ○高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる看護職者の育成に関する事項(看護学実習の受け入れなど) ○その他両者が必要と認める事項
公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団 (京都市東部文化会館)	2015年 11月5日	本学と京都市東部文化会館(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)は、連携に関する協定を、同振興財団長尾理事長、同大学細川学長出席のもと締結。 ○文化芸術活性化パートナーシップ事業 ○文化・芸術の振興に寄与する人材の育成 ○学生の参加・学習
和歌山県 和歌山県那智勝浦町	2016年 6月3日	本学と和歌山県那智勝浦町は、和歌山県が進める「大学のふるさと」の趣旨に賛同し、三者協定を締結。 ○地域資源再評価および観光広報、教育研究提携 ○人的資源の交流を通じた人材育成 ○地域貢献活動の推進による地域文化の向上および振興
京都市 京都市児童館学童連盟	2017年 7月28日	本学と京都市児童館学童連盟および京都市は、児童館における学習支援事業に係る協定を締結。 京都市内の児童館において、学生ボランティアが子どもたちの勉強サポートや相談対応などの学習支援事業を展開する。
京都府山科警察署	2017年 9月11日	本学と京都府山科警察署は、国際分野を中心とした協力に関する協定を締結。 本学から山科警察署への英語教育プログラムの提供や、山科警察署から本学留学生への柔道・剣道等日本文化体験機会の提供などを行う。
京都市 全国認定こども園協会 京都府支部	2017年 8月4日	本学と全国認定こども園協会および京都市は、幼稚園教諭免許状更新の連携・協力に関する協定を締結。 これにより2017年度からの3年間、京都府内の認定こども園、京都市内の市立・私立幼稚園および市営・民間保育園の職員を対象とした幼稚園教諭免許状の更新講習を本学で実施する。
株式会社ビバ	2018年 4月26日	本学と株式会社ビバは、教育連携および地域活性化事業の展開に関する協定を締結。株式会社ビバが指定管理者として運営を委託されたスポーツ施設等において、学生の教育や共同研究等産学連携活動を行う。
福井県小浜市	2018年 3月29日	本学と福井県小浜市は、幅広い分野で両者が有する資源を有効に活用し、活力ある地域社会の形成と振興に寄与することを目的に包括協定を締結。 ○地域振興を担う人材育成に関すること ○地域社会の活性化およびまちづくりに関すること ○教育および学習機会の提供に関すること ○産業振興に関すること ○情報収集および発信に関すること ○その他、目的を達成するために必要な事項に関すること

協定（連携）先	締結日	締結事項
京都市 京都市児童館学童連盟 京都造形芸術大学	2019年 1月21日	本学と京都市、京都市児童館学童連盟、京都造形芸術大学は、学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化と大学生等の知識・技術の向上および人材育成を図るため包括協定を締結。 ○児童館等において実施する職業体験事業への大学生の派遣 ○学生ならではの発想や行動力を活かした児童の健全育成活動全体の活性化 ○大学生等の知識・技術の向上、人材育成 等
京都薬科大学	2019年 3月18日	本学と京都薬科大学は医学専門職の養成および医学分野における教育研究の発展をめざし、包括協定を締結。 その協定に基づき、合同多職種連携教育（「IPE」）を実施する。 ○医療専門職の養成および医療分野における教育の発展に関する事項 ○学生および教職員の交流に関する事項 ○京都市山科区を中心とした地域連携に関する事項 ○医療分野における共同研究に関する事項 ○学内施設・設備の共同利用に関する事項 ○その他必要と認められる事項
守山市	2019年 7月18日	本学と守山市は、相互の人的、知的および物的資源の活用により、地域の高齢者のニーズに応えられる介護予防事業をめざし、地域の発展と地域活性化に必要な人材育成に寄与することを目的に包括協定を締結。 ○高齢者の介護予防に関する事項（一次予防事業の実施など） ○その他高齢者の健康・福祉の向上に関する事項 ○地域・社会に貢献できる人材の育成 ○その他必要と認められる事項
イオンタウン株式会社	2019年 11月1日	本学とイオンタウン株式会社は、同社が開業するイオンタウン山科榎辻において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的に、主に次に掲げる事業の企画の企画、実施等について連携し、協力する。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他必要と認められる事業
株式会社ルネサンス	2020年 4月1日	本学と株式会社ルネサンスは株式会社ルネサンスが開業する「スポーツクラブルネサンス・イオンタウン山科榎辻」において、それぞれが有する資源を有効活用し、地域の活性化、教育研究、生涯学習、文化および産業の振興、人材育成等において相互に連携・協力し、相互の発展および地域社会の発展に寄与することを目的として協定を締結。 ○地域の活性化に関する事業 ○教育研究に関する事業 ○生涯学習に関する事業 ○文化の振興に関する事業 ○産業の振興に関する事業 ○人材育成に関する事業 ○その他協議して必要と認める事業

協定(連携)先	締結日	締結事項
大阪大学 データビリティフロンティア機構	2020年 5月1日	本学と大阪大学データビリティフロンティア機構に設置するライフデザイン・イノベーション拠点本部は、健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野に関連するイノベーションの創出を目指して、連携協定を締結。 ○健康・教育・都市生活などのライフデザイン分野の共同研究に関する事項 ○研究に必要な施設・設備・備品の共同利用に関する事項 ○学生及び教職員の交流に関する事項 ○その他必要と認められる事項
日本電気株式会社 (NEC)	2020年 11月2日	本学と日本電気株式会社は、産学連携により AI・IT など先端技術に関する教育・研究施設の整備および教育活動、次世代の学習環境の構築に係る研究活動について連携・協力するために協定を締結。 ○AI・IT など先端技術の教育・研究に必要な施設・設備等の整備に関する事項 ○AI・IT など先端技術人材教育に関する事項 ○次世代の学習環境構築に関する事項 ○その他必要と認められる事項
京都市	2021年 2月5日	本学と京都市は、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力向上に向け、ふるさと納税を活用した大学・地域の連携強化に関する協定を締結。 ○ふるさと納税の活用促進に関すること ○大学・学生との地域の連携強化等に関すること ○その他双方が必要と認めること
医療法人社団洛和会	2023年 1月30日	本学と医療法人社団洛和会は看護職者の養成、看護・医療をめぐる教育・研究の振興および地域医療の発展を目的に包括協定を締結。 ○看護職者養成のための看護学実習の受け入れなど教育・研究活動への支援に関すること ○看護職および看護・医療のレベルアップのために支援に関すること ○教育・研究および地域医療の発展のため、その他必要な連携と協力を推進すること
京都府与謝野町	2023年 10月16日	本学と与謝野町は相互の人的、知的および物的資源を有効に活用し、地域社会の活性化と振興、および人材育成に寄与することを目的に覚書を締結。 ○地域社会の活性化と振興に資する地域経済分析の実施 ○地域社会に貢献できる人材の育成 ○その他、甲と乙が必要と認める事
公益財団法人 滋賀県文化財保護協会	2023年 11月13日	本学が公益財団法人滋賀県文化財保護協会と密接な連携・協力のもと、調査と研究、文化財の保存・活用および文化財を活かした地域づくり等に必須の地域人材育成に向けて相互に協力していくことを目的に協定を締結。 ○滋賀県を中心とした歴史文化遺産の調査・研究に関する事業 ○文化財の保存と活用や地域の活性化に関する事業 ○上記2つを基盤とした人材の育成に関する事業 ○その他両者が協議し、必要と認める事業
大津市	2023年 8月7日	大津市と京都橘大学が連携し、大津市内中世遺跡詳細分布調査を円滑に遂行するための覚書 ○調査の役割分担に関すること ○出土品、記録の取り扱いに関すること ○調査成果の公表に関すること ○遺跡保存への活用などに関すること
京都府山科警察署	2023年 12月21日	災害時における施設使用に関する協定

協定（連携）先	締結日	締結事項
医療法人栄仁会	2024年 3月27日	医療法人栄仁会と京都橘大学との教育・研究協力包括協定 ○教育・研究活動への支援等
国立大学法人滋賀大学	2024年 6月4日	国立大学法人滋賀大学と京都橘大学との連携及び協力に関する協定 ○教育・研究に関すること ○学術研究に関すること ○リカレント教育に関すること ○文化・芸術の向上のための活動
北見工業大学、電気通信大学、 北海道大学信州大学、 公立はこだて未来大学	2024年 8月23日	カーリング競技を対象としたスポーツAI・スポーツデータサイエンスの実証 研究コンソーシアム協定
株式会社未来シェア	2025年 2月5日	相互の発展及び社会的価値の向上を目指す連携協定の締結 ○教育・研究および地域社会への貢献に関する事項
国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学	2025年 3月5日	教育的交流および学術的交流を促進するための協定 ○教育連携に関する事項 ○研究連携に関する事項 ○教職員および学生間の交流に関する事項

2024年度 京都橘大学 地域連携活動実績集
(2024年4月～2025年3月)

発行日 2025年3月31日

発 行 京都橘大学 地域連携センター
607-8175 京都市山科区大宅山田町34
TEL : 075-574-4186
FAX : 075-574-4149
URL : <https://www.tachibana-u.ac.jp/>
E-mail : aca-ext@tachibana-u.ac.jp



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学